

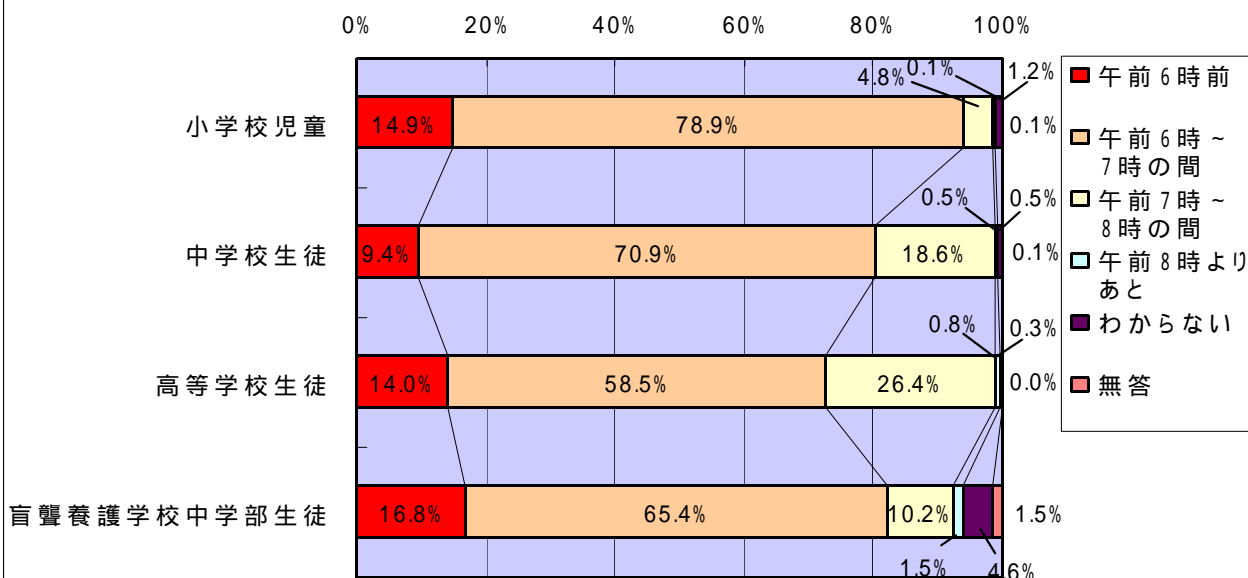
1 あなたの一日の生活をふりかえり、次の質問について、あてはまるものを一つ選んで答えましょう。

小・中・高・盲聾養

Q 1 学校のある日は、朝、だいたい何時ころに起きますか？

- 1 午前6時前 2 午前6時～7時の間
3 午前7時～8時の間 4 午前8時よりあと 5 わからない

Q 1 学校のある日、朝、だいたい何時ころ起きますか



小学生の9割以上、中学生と盲聾養護学校中学部生徒（以下、中学部生徒）の8割程度、高校生の7割強が午前7時前に起床している。小学生、中学生、高校生と進むにつれて、早く起きる割合が減少している。一方で、午前7時以降に起きる割合が、高校生に至っては回答数の1/4を超えている。

起床時間は、学校の始業時刻、通学距離及び時間、通学手段等に大きく関わっていると考えられる。特に、高校生においては、午前7時以降に起きる割合が比較的多いことから、別の視点として、朝起きてから、身支度や朝食に時間を十分にかけないこと、あるいは、朝食を食べないで学校に行っていることも考えられる。

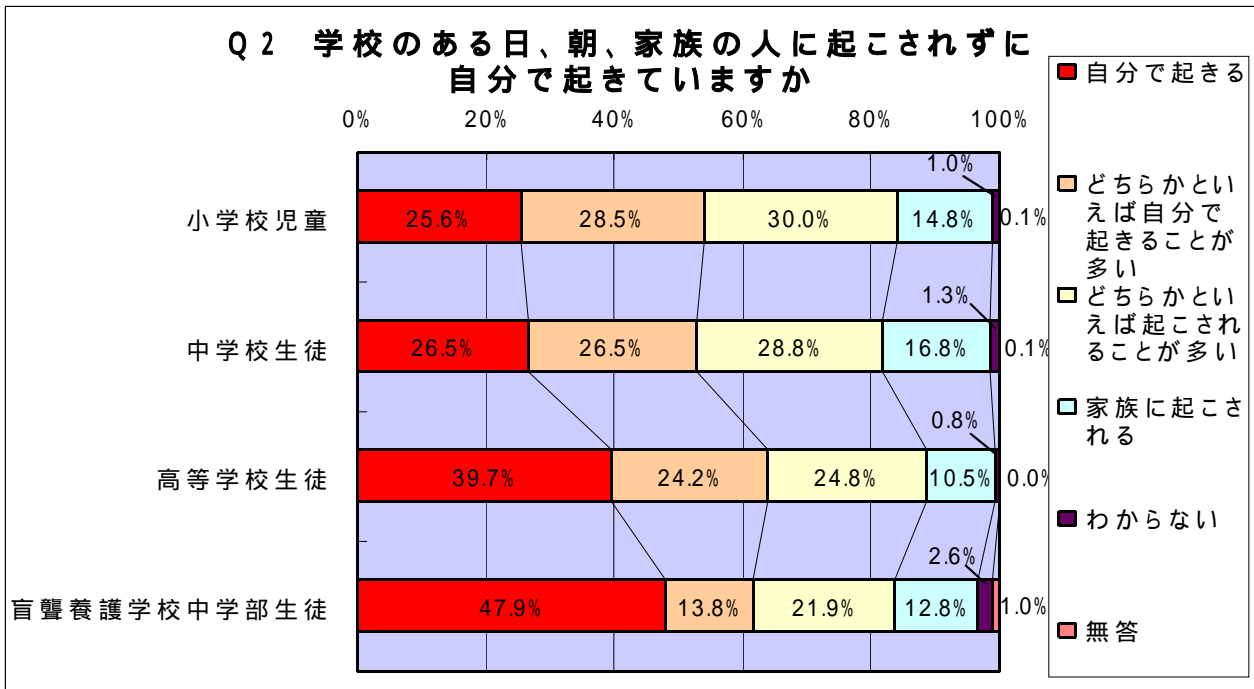
中学部生徒に、午前6時前に起床する生徒の割合が他より多くなっているのは、朝食や身支度等の時間を十分にかけるようにしていること、また、父母による送迎や寄宿舎で生活している生徒もいることから、規則正しい生活を過ごしていることが考えられる。

就寝時間との関連も十分考えられる内容であることから、実態を把握するとともに、健康面との関わりにも配慮していく必要がある。

参考：【クロス集計：Q 2「朝、自分で起きているか」、Q 6「夜、何時に寝るか」】

Q 2 学校のある日、朝、家族の人に起こされずに自分で起きていますか？

- 1 自分で起きる 2 どちらかといえば自分で起きることが多い
 3 どちらかといえば起こされることが多い 4 家族に起こされる
 5 わからない



小学生、中学生の傾向は、全体的に似ている。「自分で起きる」「どちらかといえば自分で起きる」という肯定的な回答がだいたい同じ割合で、合わせると半数を超える程度であり、「どちらかといえば起こされることが多い」という回答が3割程度である。この三つの回答の割合は同程度である。「起こされる」という回答が15%程度である。

ところが、高校生では、「自分で起きる」割合が約4割となり、小学生、中学生の割合より15%程度多くなっている。また、「起こされる」割合も減少し、小学生、中学生との違いがはっきりしている。

中学部生徒においては、「自分で起きる」割合が5割近くを占めている。他よりも「どちらかといえば自分で起きる」割合が半分近く少なく、「自分で起きる」か、もしくは「起こされる」かが、はっきりしている。「どちらかといえば自分で起きる」割合が少ないのは、ふだんの生活指導等によるものと考えられる。

自立した生活の基本となる内容の一つとして、基本的な生活習慣の形成に必要なことであるので、家庭との連携のもと、定着を図っていきたい。

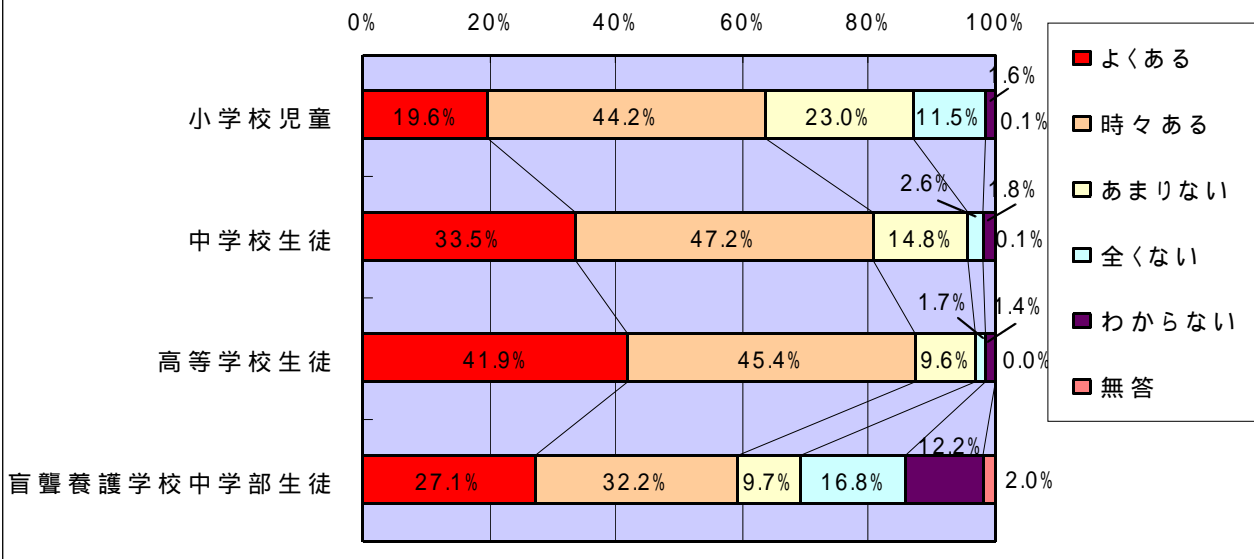
参考：【クロス集計：Q 1 「朝、何時に起きるか」

Q 4 「朝、学校に行きたくないと思うことがあるか」】

Q3 学校のある日、朝起きたときに疲れていると感じることがありますか？

- 1 よくある 2 時々ある 3 あまりない
 2 まったくない 5 わからない

Q3 学校のある日、朝起きたとき、疲れたと感じることがありますか



小学生、中学生、高校生と校種が変わるにつれて、「よくある」「時々ある」という肯定的な回答の割合が増加している。中学生では8割が、朝起きたとき、疲れたと感じることが「よくある」あるいは「時々ある」と回答し、高校生では、4割を超える生徒が「よくある」を回答している。また、小学生、中学生、高校生における「時々ある」という回答の割合には大きな差はなく、肯定的な回答の割合の増加は、「よくある」という回答の割合の増加に連動していることがいえる。

一方、「全くない」という回答は、小学生で1割程度あったものが、中学生ではその1/4程度の減少し、高校生ではさらに少なくなっている。

中学部生徒では、「よくある」あるいは「時々ある」という肯定的な回答は、6割程度であり、小学生より若干少ないが、「よくある」だけをみると、小学生よりも多い傾向にある。「全くない」という回答は、他よりも多い。

校種が変わるにつれて、肯定的な回答が増えていることを踏まえ、感じる「疲れ」の内容（例えば体力的なものか精神的なものか等）について把握し、校種によるその質的な違い等について考えていくことが求められる。

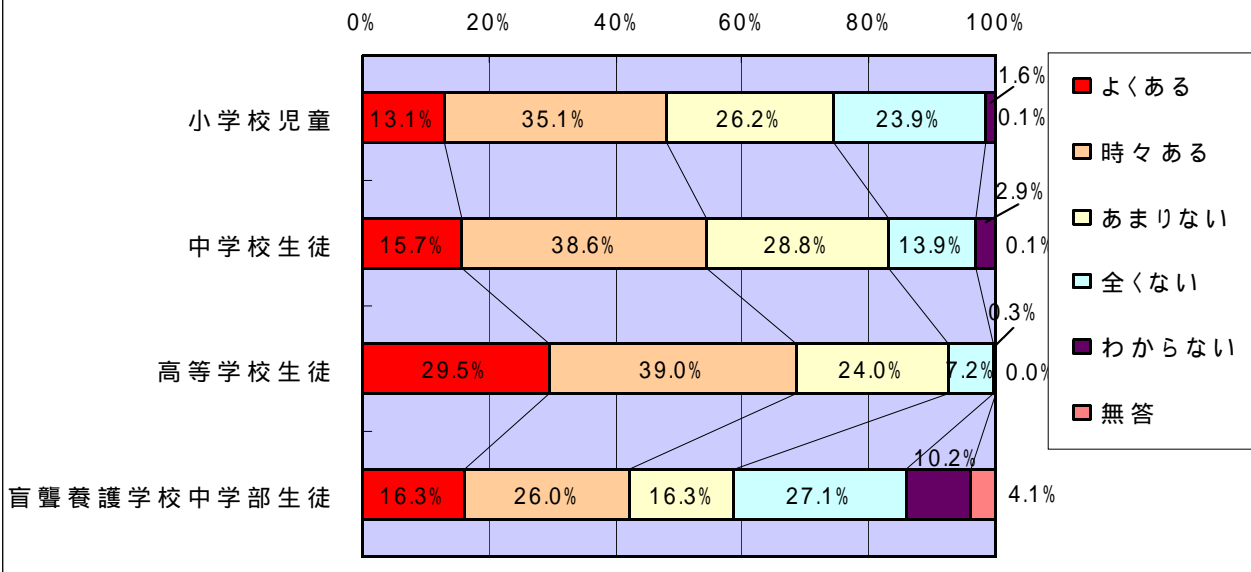
参考：【クロス集計：Q4「朝、学校に行きたくないと思うことがあるか」】

【関連資料：担任Q1「朝から疲れた感じの表情や態度の子」】

Q 4 朝起きた時、学校に行きたくないと思うことがありますか？

- 1 よくある 2 時々ある 3 あまりない
4 まったくない 5 わからない

Q 4 朝起きたとき、学校に行きたくないと思うことがありますか



小学生、中学生、高校生と校種が変わるにつれて、「よくある」「時々ある」という肯定的な回答の割合が増加している。小学生、中学生では5割程度であるが、高校生になると7割近くに増加する。しかも、高校生では、小学生、中学生よりも「よくある」という回答の割合が2倍近くに増えている。「時々ある」「あまりない」の割合は、小学生、中学生、高校生とも大きな違いはない。「全くない」割合が、小学生の24%程度いたが、中学生になるとおよそ半減し、高校生になるとさらに半減している。

小学生から中学生になると「全くない」という回答の割合が半減し、中学生から高校生になると「よくある」という回答の割合が倍増していることがわかる。

中学部生徒では、肯定的な回答と否定的な回答の割合は、だいたい同じで4割程度であるが、他と比較して、「全くない」という回答の割合が27%と多くなっており、選択肢の中で一番多い。

校種が変わるにつれて、肯定的な回答が増えていることを踏まえ、要因を明らかにしていくとともに、児童生徒の心の成長にも配慮した指導が求められる。

参考：【クロス集計：Q 2「自分で起きるか」

Q 3「朝起きたときに、疲れたと思うことがあるか」

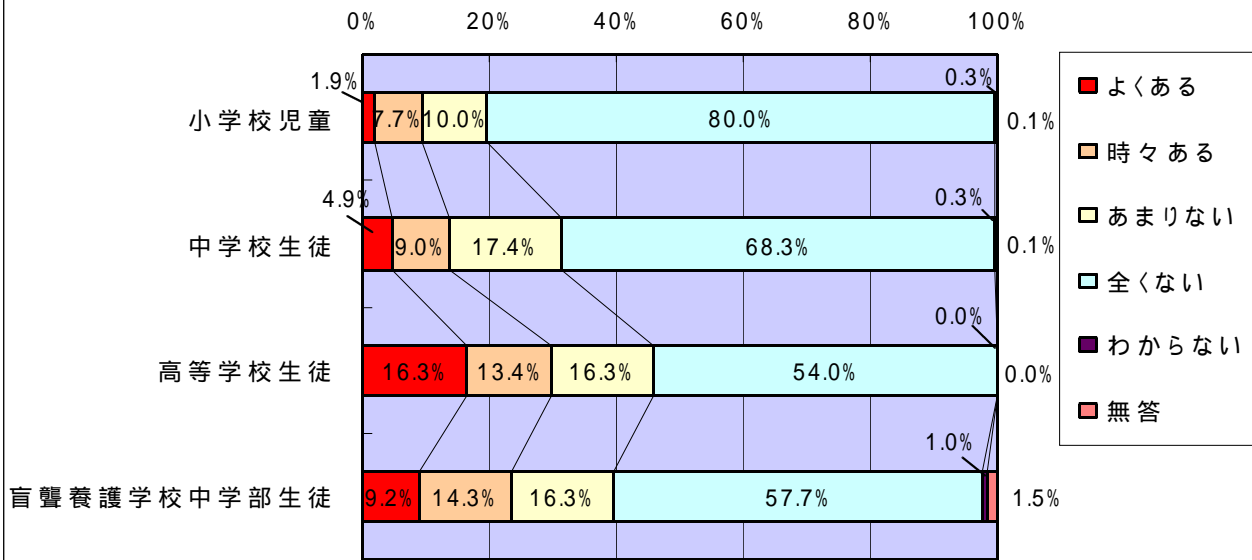
Q 5「朝食を食べないで学校に行くことがあるか」】

【関連資料：担任Q 1「朝から疲れた感じの表情や態度の子」】

Q 5 朝食を食べないで学校に行くことがありますか？

- 1 よくある 2 時々ある 3 あまりない
4 まったくない 5 わからない

Q 5 朝食を食べないで学校に行くことがありますか



小学生、中学生、高校生と校種が変わるにつれて、「よくある」「時々ある」という肯定的な回答の割合が増加している。小学生では、10%程度であった肯定的な回答が、中学生で14%程度、高校生では、約30%と倍増している。中でも、「よくある」という回答は、小学生が2%程度であったものが、中学生で5%程度、高校生になると16%と急増している。「全くない」という回答も、小学生では8割あったが、中学生では、7割を下回り、「あまりない」という回答が増えている。

全体として、小学生から中学生になると「全くない」という回答の割合が大きく減少し、中学生から高校生になると「よくある」という回答の割合が約3倍に増加していることがわかる。

中学部生徒の傾向は、中学生と高校生の回答の中間的な回答となっている。「よくある」と回答した生徒が1割程度おり、「全くない」という回答の生徒が6割程度である。

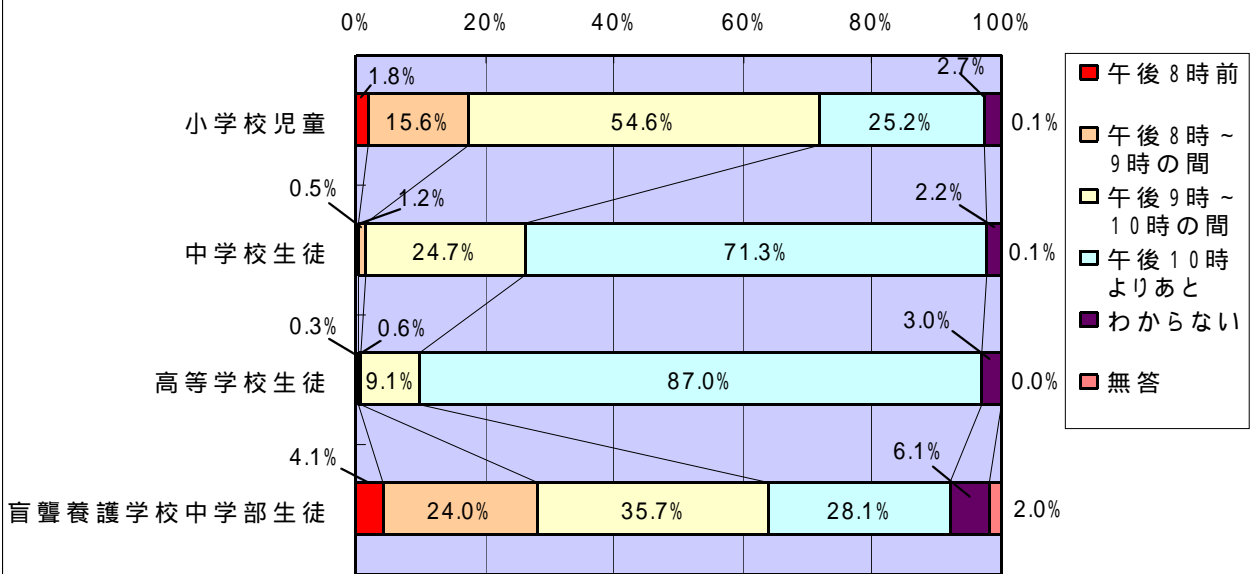
高校生に朝食をとらない生徒が増える理由について、起床時間との関連や、体調、健康面などの様々な要因などが考えられることから、実態を把握し、適切な指導が求められる。

参考：【クロス集計：Q 4「朝、学校に行きたくないと思うことがあるか」
Q 18「家族そろって朝食をとるのは週に何回か」】

Q 6 平日は、夜、だいたい何時ごろに寝ますか？

- 1 午後8時前 2 午後8時～9時の間 3 午後9時～10時の間
 4 午後10時よりあと 5 わからない

Q 6 平日は、夜、だいたい何時ごろに寝ますか



小学生、中学生、高校生と校種が変わるにつれて、夜遅くまで起きている児童生徒が増えていることがわかる。特に、小学生から中学生への変化が大きい。「午後8時～9時就寝」が15%から1%程度に「午後9時～10時就寝」が約55%から半分以下の約25%に、それぞれ減少し、逆に、「午後10時以降就寝」が約25%から約70%に大きく増加している。

さらに、高校生では、午後9時までの就寝の割合が1%を下回り、「午後9時～10時就寝」の割合が約9%となり、「午後10時以降」の87%と合わせて、高校生全体の95%を超えている。

中学部生徒の傾向は、小学生の傾向に近く、全体の約1/4が午後9時前に就寝しているが、「午後10時以降就寝」の割合が3割近くあり、小学生よりも早い時間になる生徒も多いが、逆に遅い生徒も多いという傾向にある。

家庭学習の内容や量、塾、趣味や自由時間等々、就寝時間が遅くなる理由について、様々推測される。実態把握とともに、適切な指導が求められる。

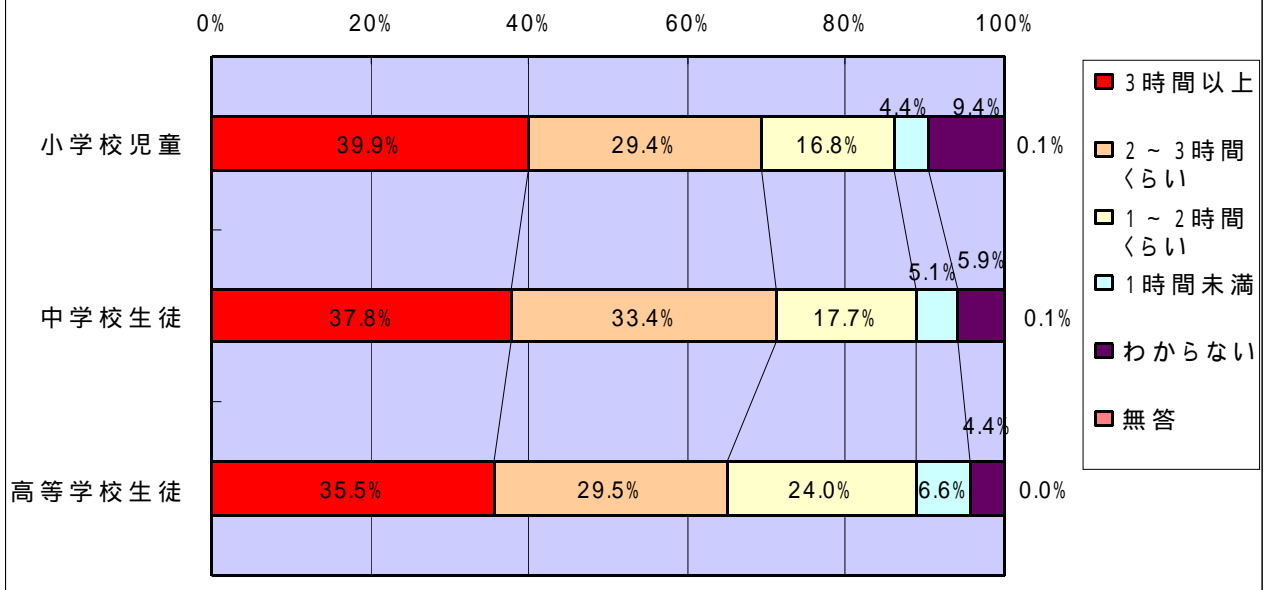
参考：【クロス集計：Q1「朝、何時に起きるか」】

【関連資料：担任Q1「朝から疲れた感じの表情や態度の子」】

Q7 あなたは、平日に、平均してどのくらいの時間、テレビを見ますか？

- 1 3時間以上 2 2～3時間くらい 3 1～2時間くらい
4 1時間未満 5 わからない

Q7 平日に、平均してどれくらいの時間、テレビを見ますか



小学生、中学生、高校生も、さほど大きな違いはみられない。

「3時間以上」という回答が、小学生は4割近くを占め、中学生で微減、高校生でも35%を超えている。「2～3時間くらい」という回答が、小学生、高校生が共に3割程度、中学生も33%と近い数字である。「1～2時間くらい」の回答では、小学生、中学生とも17%程度であるのに対し、高校生は24%と多くなっている。さらに高校生では「1時間未満」という回答も小学生、中学生より微増傾向にある。

中学生、高校生になると、全体的にテレビを見る時間が減少する傾向にある。特に高校生では、「3時間以上」が、中学生の割合より微減であるのに対し、「2～3時間くらい」が減少し、「1～2時間くらい」「1時間未満」が増加していることから、テレビを見る生徒と見ない生徒の2極化が進んでいると考えられる。

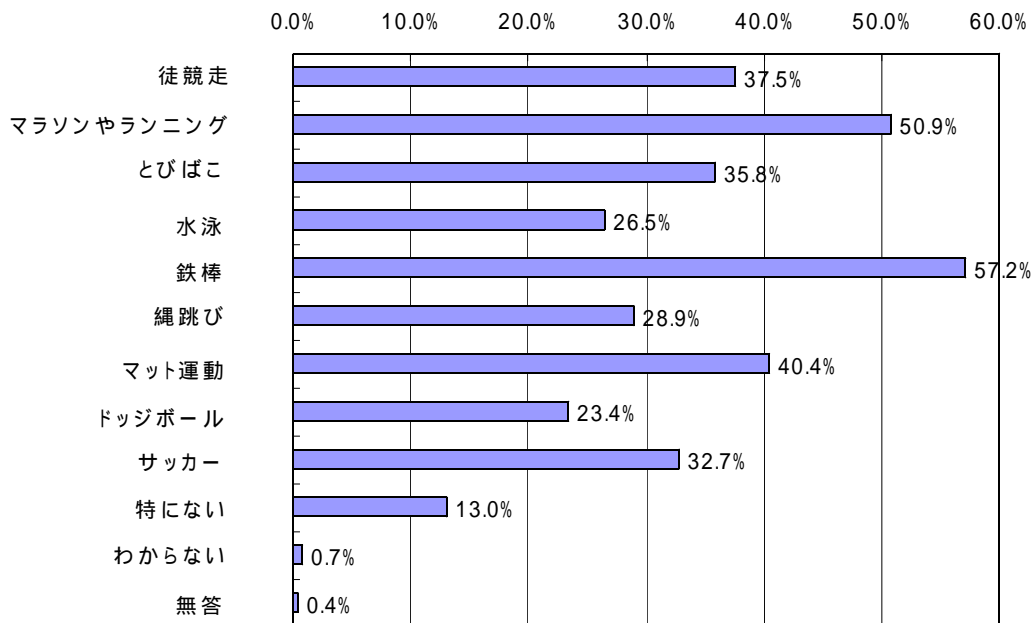
参考：【関連資料：児童生徒Q12（盲聾養Q11）「ひと月に何冊くらいマンガ以外の本を買うか」
Q13（盲聾養Q12）「ひと月に何冊マンガ以外の本を読むか」
Q14（盲聾養Q13）「ひと月に何冊くらいマンガ本を買うか」
Q15（盲聾養Q14）「ひと月に何冊マンガ本を読むか」】

小・中・高・盲聾養

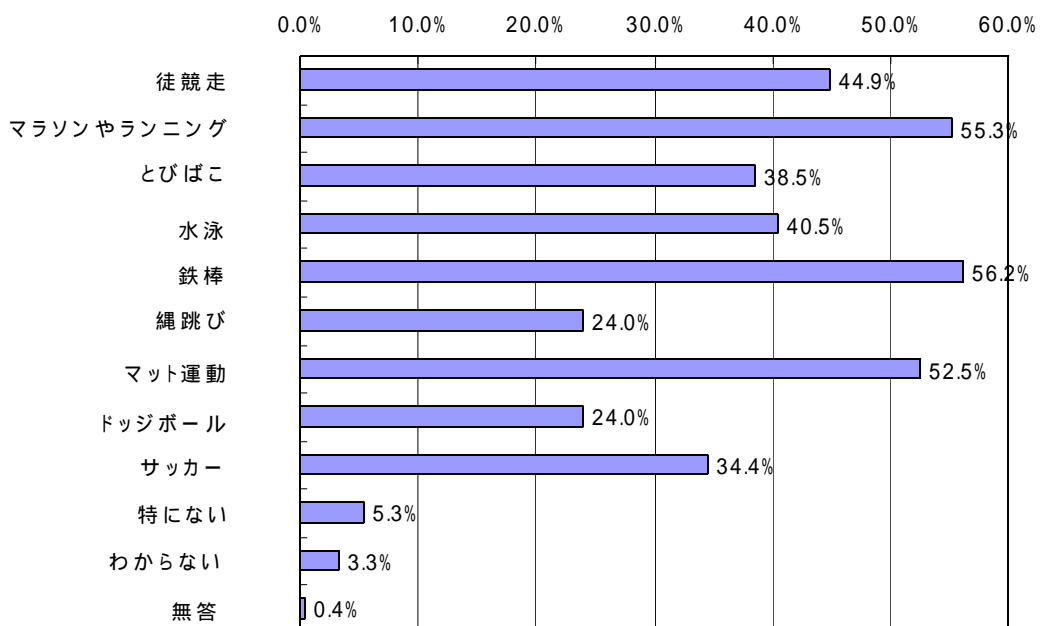
Q 9 小学校に入学してからこれまで学習した運動のうち、次の中であなたが、得意ではないと思うものをすべて選んで、答えましょう。(盲聾養はQ 8)

- 1 徒競走 2 マラソンやランニング 3 とびばこ 4 水泳
 5 鉄棒 6 なわとび 7 マット運動 8 ドッジボール
 9 サッカー 10 特にない 11 わからない

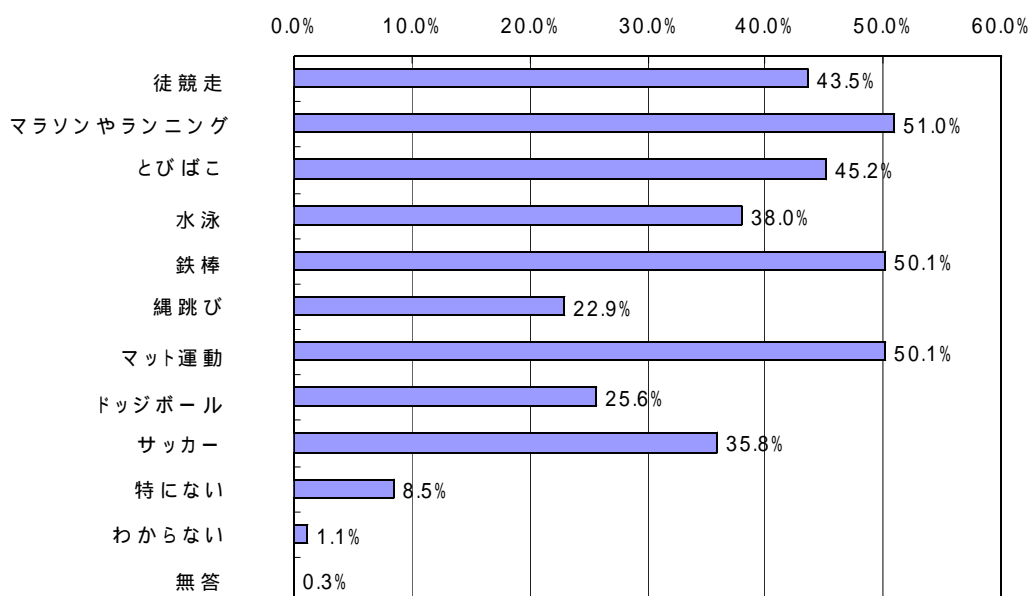
小学校：Q 9 得意ではない運動は何ですか(複数回答)



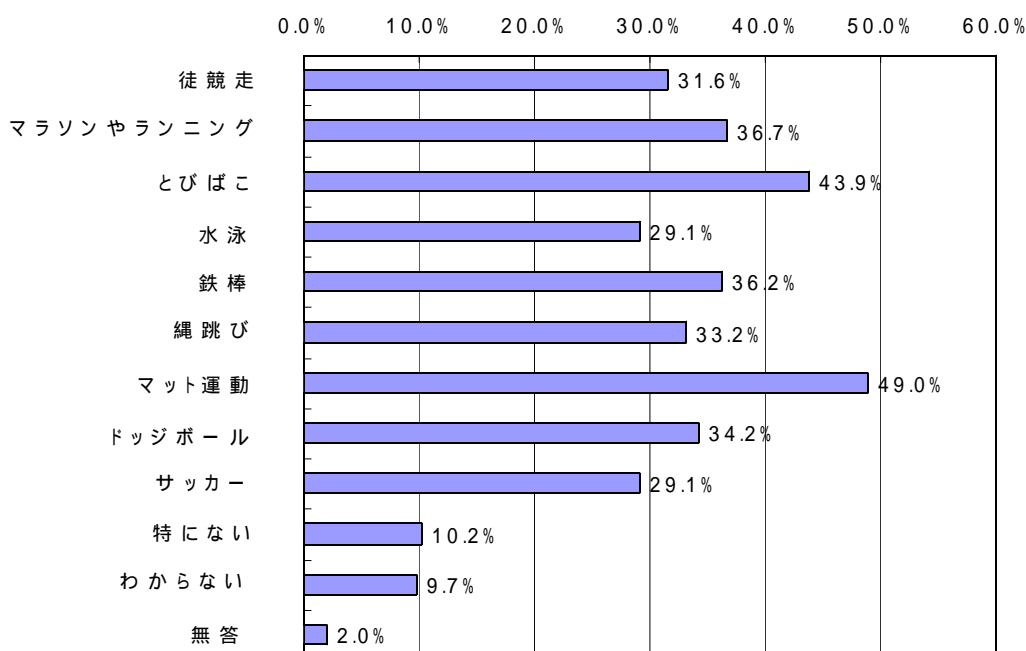
中学校：Q 9 得意ではない運動は何ですか(複数回答)



高等学校：Q9 得意ではない運動は何ですか（複数回答）



盲聾養：Q8 得意ではない運動は何ですか（複数回答）



小学生、中学生、高校生とも、上位三つが、「鉄棒」「マラソンやランニング」「マット運動」で占められており、さらに、小学生と高校生では「徒競争」「跳び箱」、中学生では「徒競争」「水泳」が続いている。「水泳」は、小学生では26%程度であったのが、中学生、高校生になると40%を超えている。また、豊富な運動量とチームプレー等が求められる「サッカー」という回答が、小学生から高校生まで30%を超えていることが注目される。

中学部生徒は、「マット運動」「跳び箱」が多く、他の選択肢が約30～40%の間に集中していることが特徴といえる。

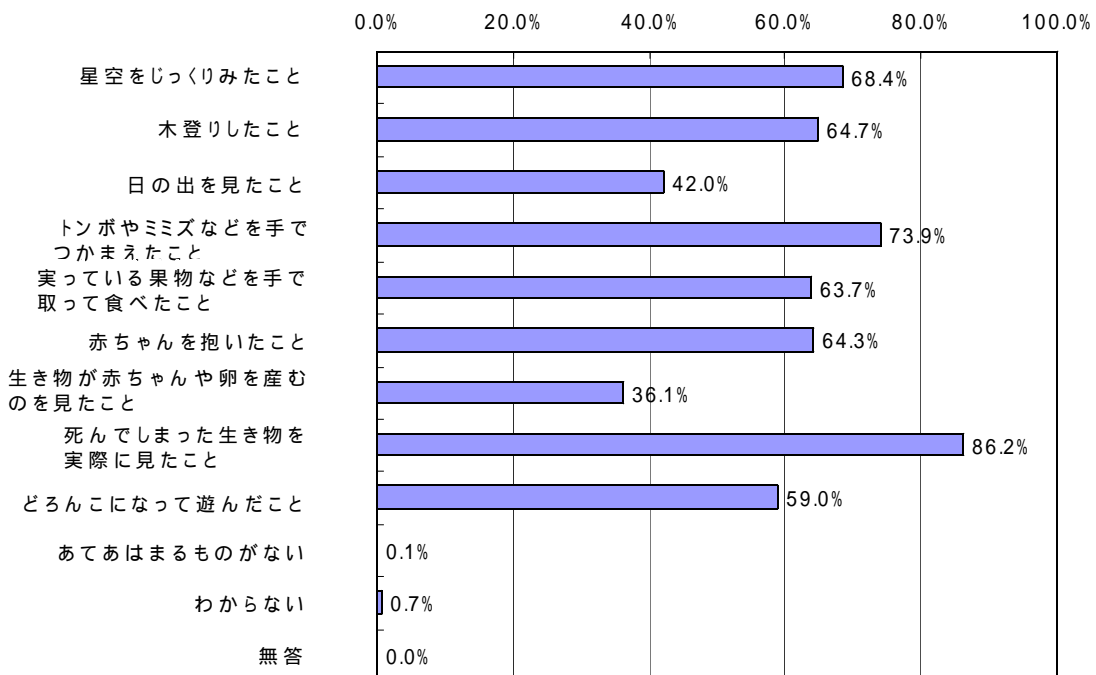
参考：【関連資料：児童生徒Q8（盲聾養はQ7）「運動することが好きか」】

小・中・高・盲聾養

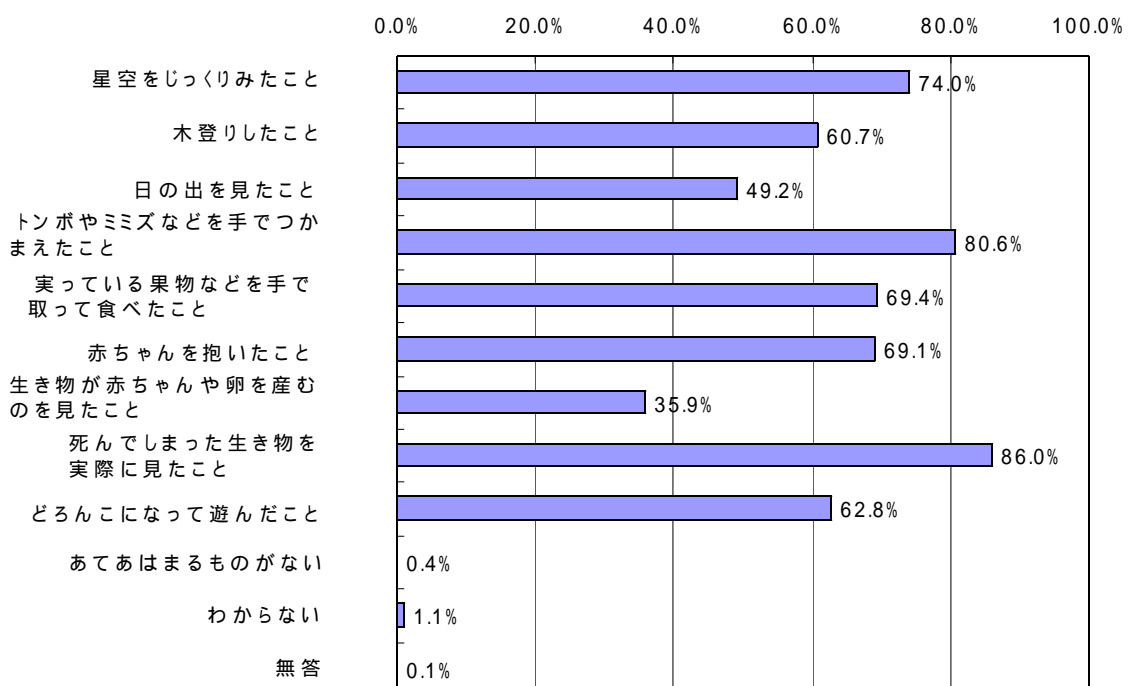
Q10 あなたは、今まで次のような体験をしたことがありますか？あてはまるものをすべて選んで、 答えましょう。(盲聾養はQ9)

- 1 星空をじっくり見たこと 2 木登りをしたこと 3 日の出を見たこと
- 4 トンボやミミズなどを手でつかまえたこと
- 5 実っているくだものなどを手でとって食べたこと
- 6 赤ちゃんを抱いたこと 7 生き物が赤ちゃんや卵を産むのを見たこと
- 8 死んでしまった生き物を実際に見たこと 9 だろんこになって遊んだこと
- 10 あてはまるものがない 11 わからない

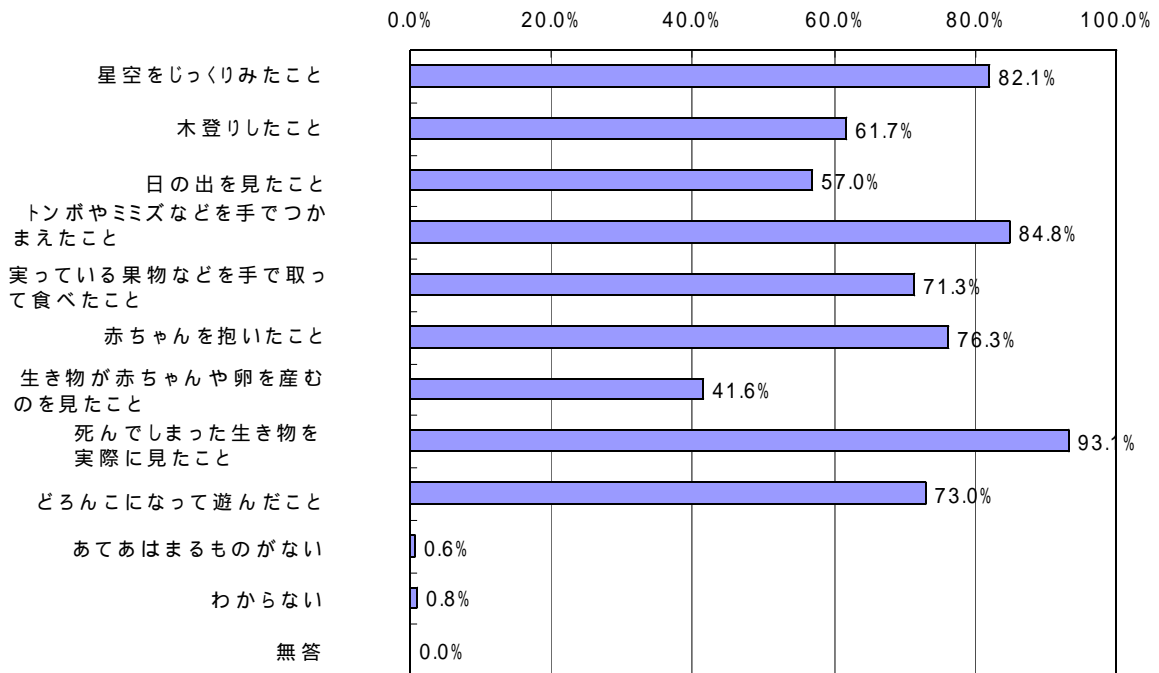
小学校：Q10 今まで次のような体験をしたことがあるか(複数回答)



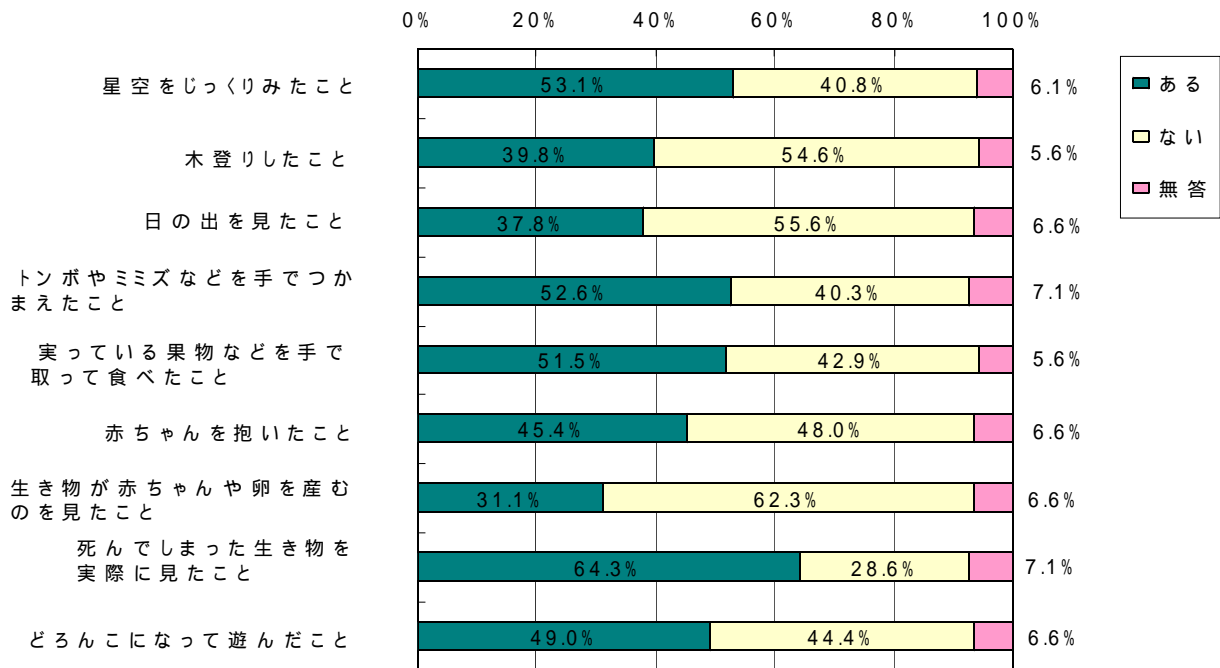
中学校：Q10 今まで次のような体験をしたことがありますか(複数回答)



高等学校：Q10 今まで次のような経験をしたことがありますか（複数回答）



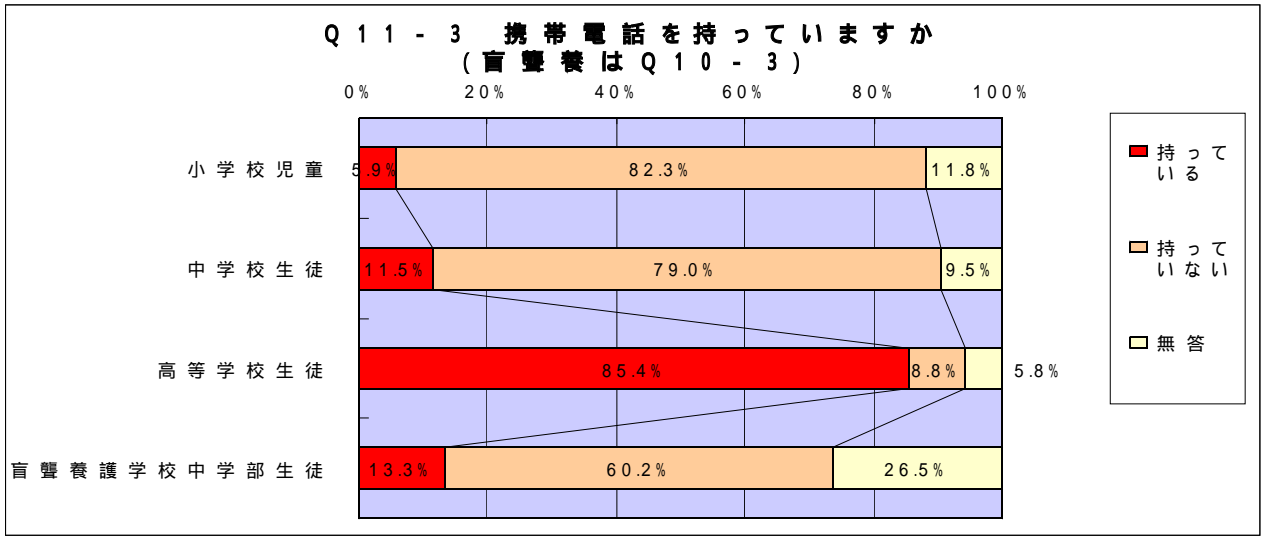
盲聾養：Q9 今まで次のような経験をしたことがありますか（複数回答）



数値の違いはあるものの、どの校種にも全体的な傾向に大きな違いはない。あげるとすれば、小学生における「星空をじっくりみたこと」の割合、中学部生徒における「赤ちゃんを抱いたこと」及び「どろんこになって遊んだこと」の割合が、他校種における他の選択肢と比較して、少ない傾向にある。また、「日の出を見たこと」がない小学生、中学生及び中学部生徒は半数以上いること、「木登りしたこと」がない中学部生徒も半数以上いることがわかる。「死んでしまった生き物を実際に見たこと」がある児童生徒は多いが、「生き物が赤ちゃんや卵を産むのをみたこと」がある児童生徒は、4割程度以下である。命の大切さをどこでどう教えていくか、生活体験の少ない部分をどのように補っていくか、様々な工夫が必要となってくる。

小・中・高・盲聾養

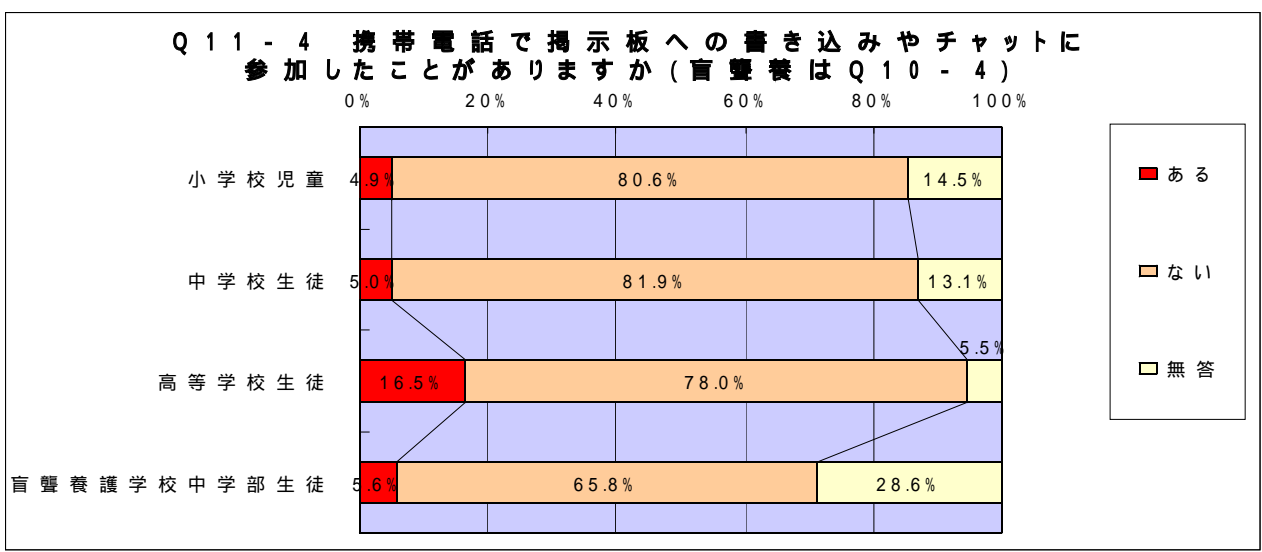
Q11 - 3 あなたは、自分の携帯電話（通話が可能なもの）を持っていますか？
 （盲聾養はQ10 - 3）
 1 持っている 2 持っていない



「持っている」という回答が小学生では、6%程度であるが、中学生では約11%と2倍近くに増え、高校生では、約85%と大きく増えている。中学部生徒は、中学生と同じ程度の所有率となっている。

小・中・高・盲聾養

Q11 - 4 今までに携帯電話（他人の携帯電話も含む）を使って、掲示板に書き込みをしたり、チャットに参加したりしたことがありますか？（盲聾養はQ10 - 4）
 1 ある 2 ない



「ある」という回答は、小学生、中学生ともに5%程度であるが、高校生では、3倍近くに増えている。Q11 - 3の所有率と比べると、小学生以外は半分以下に割合が減少しているが、小学生はほぼ同じ割合となっている。

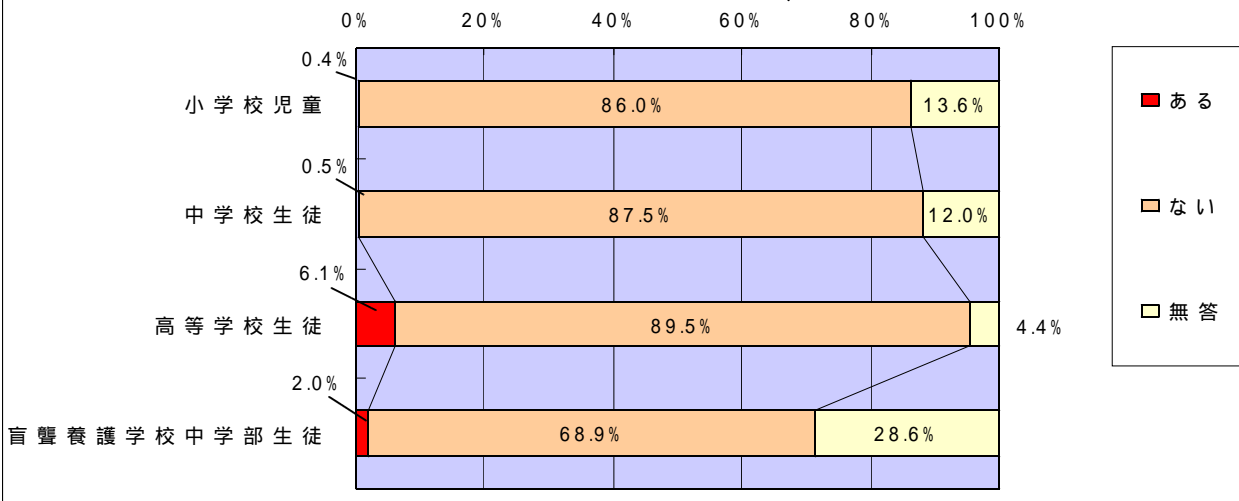
Q11-5 携帯電話で、いわゆる「出会い系サイト」に接続したことがありますか？

(盲聾養はQ10-5)

1 ある

2 ない

Q11-5 携帯電話で、出会い系サイトに接続した
ことがありますか(盲聾養はQ10-5)



「ある」という回答は、小学生、中学生では、約0.5%と低い割合である。高校生は、約6%と急増している。中学部生徒では、2%が「ある」と回答しており、中学生より高い割合になっている。

掲示板への書き込みやチャットへの参加の経験の有無について、校種に違いが見られる。小学生は、「パソコン」「携帯電話」とも、1割を下回っているが、中学生では、「パソコン」での経験の割合が2割近くに増え、さらに高校生では、「パソコン」「携帯電話」ともに約2割となっている。

また、「携帯電話による出会い系サイトへの接続」についても、高校生の割合が多くなっている。

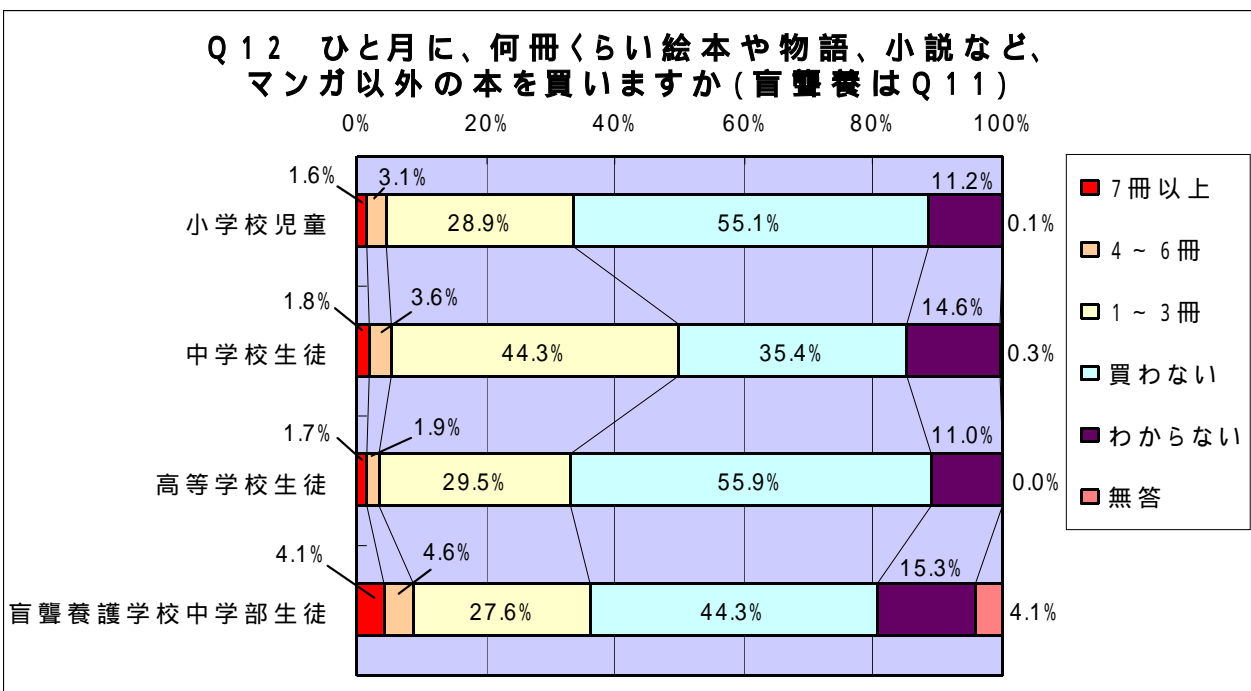
携帯電話の利用について、事件や犯罪等に巻き込まれるケースや有害サイトに関わるトラブル等も想定されることから、適切な利用やモラル等について、特に高校生への指導や確認等が求められるとともに、中学生、さらには小学生への指導等にも配慮が必要と思われる。

3 読書について、次の質問を読み、あてはまるものを一つ選んで答えましょう。

小・中・高・盲聾養

Q12 ひと月に、何冊くらい絵本や物語、小説など、マンガ以外の本を買いますか？
(盲聾養はQ11)

1 7冊以上 2 4冊～6冊 3 1冊～3冊 4 買わない
5 わからない



「7冊以上」「4～6冊」という回答が、どの校種でも少ない。小学生と高校生の傾向が似ており、「1～3冊」が3割弱、「買わない」が5割を超えている。中学生では、「1～3冊」が約44%、「買わない」が約35%と、小学生及高校生の比べて反対の傾向となっている。

中学部生徒は、「7冊以上」「4～6冊」の割合が、他の校種より多くなっている。

マンガ以外の本を買う児童生徒が少ない理由として、学校や地域の図書館を利用していること、マンガ以外の本を買うことよりもマンガ本を買うことを選択すること、マンガ以外の本を(あまり)読まないこと、マンガも含めて、本そのものを買わないこと等、様々な要因が考えられる。中学生で若干多い傾向が見られるのは、参考書等の購入も考えられる。まず、実態を把握することが求められる。

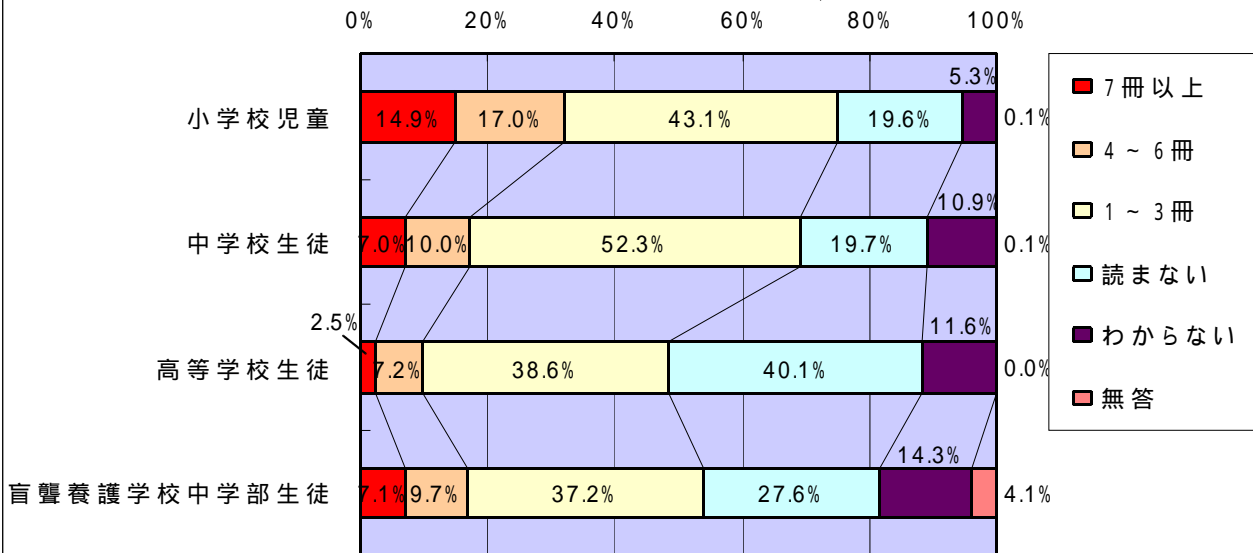
参考：【クロス集計：Q14「ひと月に何冊くらいマンガ本を買うか」】

【関連資料：児童生徒Q13(盲聾養Q12)「ひと月に何冊マンガ以外の本を読むか」
Q15(盲聾養Q14)「ひと月に何冊マンガ本を読むか」】

Q13 ひと月に、何冊くらい絵本や物語、小説など、マンガ以外の本を読みますか？
(盲聾養はQ12)

- 1 7冊以上 2 4冊～6冊 3 1冊～3冊 4 読まない
5 わからない

Q13 ひと月に、絵本や物語など、マンガ以外の本を何冊読みますか(盲聾養はQ12)



全体的な傾向として、小学生、中学生、高校生と進むにつれて、本を読む冊数が少なくなる傾向にある。特に、「7冊以上」「4～6冊」という回答が、大幅に減少している。

高校生では、「1～3冊」という回答が、中学生で5割を超えていたものが、4割を下回り、逆に中学生で2割を下回っていた「読まない」生徒の割合が4割と多くなっている。

中学部生徒は、中学生の割合と近い傾向にあり、「7冊以上」「4～6冊」という回答が、約17%程度となっている。

グラフの傾向は、校種による読書指導に違いはあると思われるが、自発的に読書をする児童生徒の割合にとどまらず、学校において意図的に時間を設定している等の違いもあるものと思われる。また、中学生、高校生では、家で読書をする時間がとれない状況にあることも想定される。読書のねらいを明らかにして、意図的な時間設定等の取り組みなどが求められる。

参考：【クロス集計：Q15(盲聾養Q14)「ひと月に何冊マンガ本を読むか」

盲聾養Q15「読書が好きか」】

参考：【関連資料：児童生徒

Q12(盲聾養はQ11)「ひと月に何冊くらいマンガ以外の本を買うか」

Q14(盲聾養はQ13)「ひと月に、何冊くらいマンガ本を買うか？」

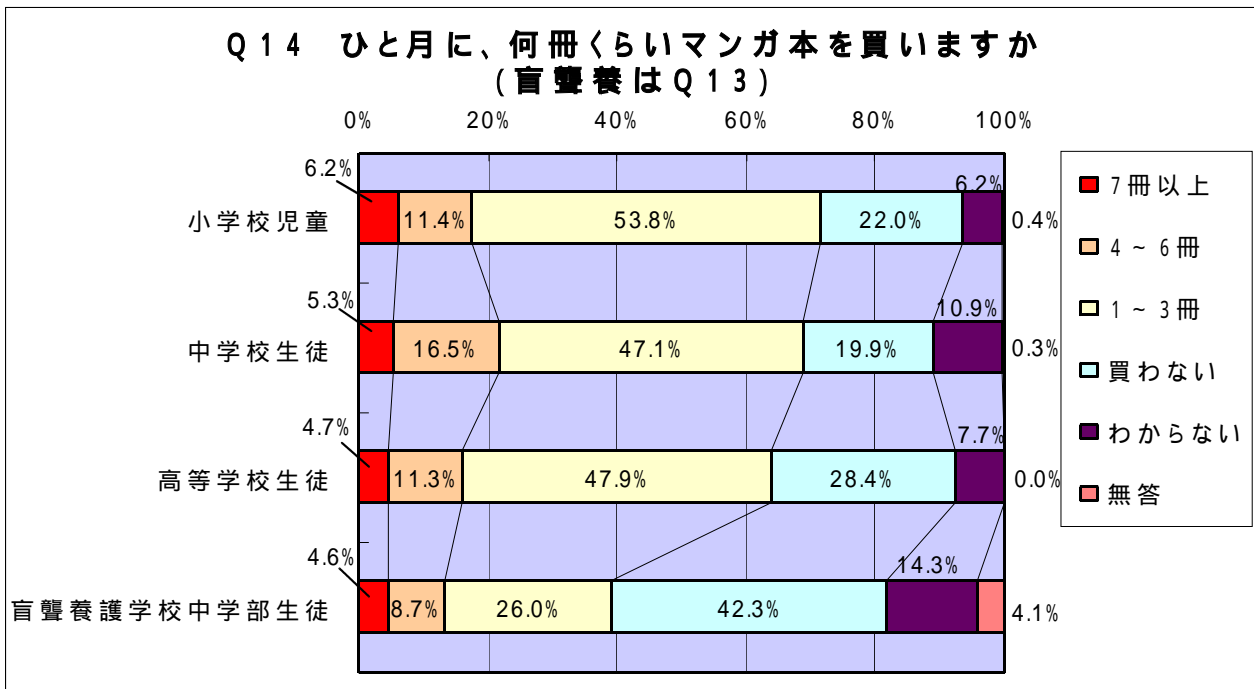
保護者Q4「読書が好きか」

Q5「本の内容について子供と話をすることがあるか」

Q6「幼児期に、読み聞かせをしたか」】

Q14 ひと月に、何冊くらいマンガ本を買いますか？（盲聾養はQ13）

- 1 7冊以上 2 4冊～6冊 3 1冊～3冊 4 買わない
5 わからない



「7冊以上」という回答が、すべての校種において5%前後みられる。「4～6冊」という回答も小学生、高校生、中学部生徒において1割前後みられ、中学生では16%程度みられる。特に、中学生では、「4冊～6冊」という回答が、他より多く、「買わない」という回答が少ないという傾向が見られる。

中学部生徒は、「1～3冊」の割合が、他の校種より大幅に少なく、小学生の半分ほどである。さらに、「買わない」という回答が他より多く、4割を超えている。寄宿舍等で生活している生徒も含まれており、自由に購入出来る状況にないことも要因として考えられる。

「お小遣い等、自分の自由になるお金の額」との関わりで考えると、特に小学生がひと月に7冊以上マンガ本を購入している状況について、実情を把握しておく必要があると思われる。

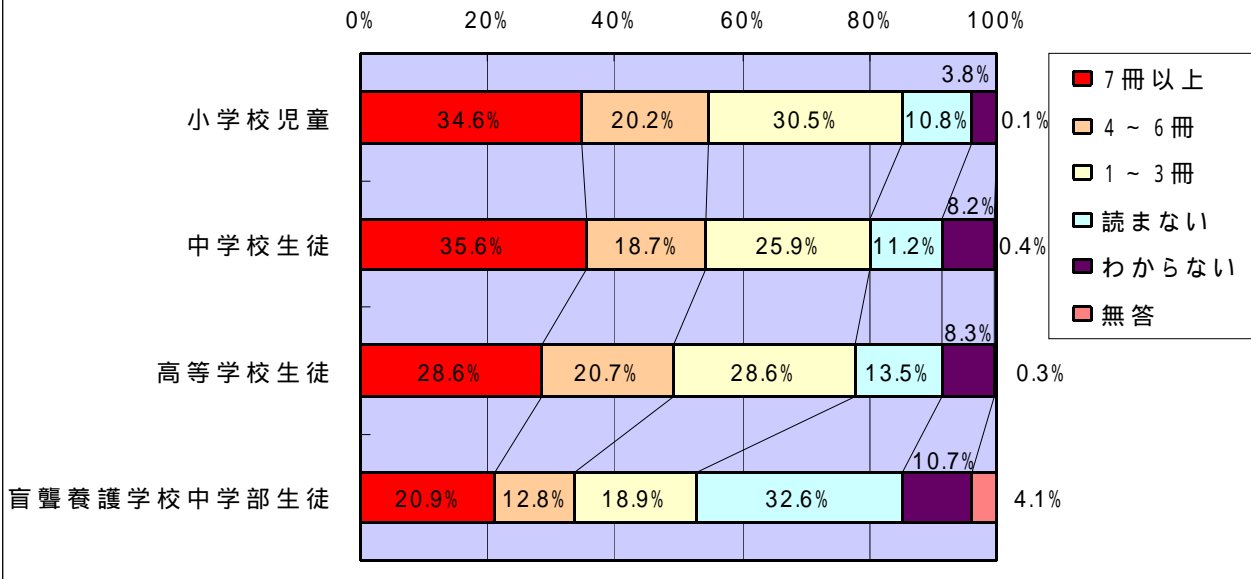
参考：【クロス集計：Q12「ひと月に何冊くらいマンガ以外の本を買うか」】

【関連資料：児童生徒Q13（盲聾養Q12）「ひと月に何冊マンガ以外の本を読むか」
Q15（盲聾養Q14）「ひと月に何冊マンガ本を読むか」】

Q15 ひと月に、何冊くらいマンガ本を読みますか？（盲聾養はQ14）

- 1 7冊以上 2 4冊～6冊 3 1冊～3冊 4 読まない
5 わからない

Q15 ひと月に、マンガを何冊読みますか（盲聾養はQ14）



小学生、中学生、高校生では、8割以上の児童生徒がひと月に1冊以上マンガを読んでいることがわかる。

特に小学生、中学生では、「7冊以上」と回答する割合が、全体の1/3を超え、「4～6冊」「1～3冊」という回答を上回っている。高校生でも3割近くが「7冊以上」と回答し、「1～3冊」と同じ割合になっている。

中学部生徒は、「7冊以上」は2割程度と他より少なく、「4～6冊」「1～3冊」という回答も少ない傾向にある。一方、「読まない」という回答が全体の約1/3にのぼり、他の校種における回答の1割程度より多い割合となっている。

全体的に、マンガを読む児童生徒は多いことがわかる。前問のQ14との比較で考えると、マンガを買う児童生徒の割合より、マンガを読んでいる児童生徒の割合が多いことから、自分が買ったマンガ本を交換して読むことにより、ひと月に多くの（種類の）マンガを読む結果が表れたものと思われる。

参考：【クロス集計：Q13（盲聾養Q12）「ひと月に何冊マンガ以外の本を読むか」】

【関連資料：児童生徒

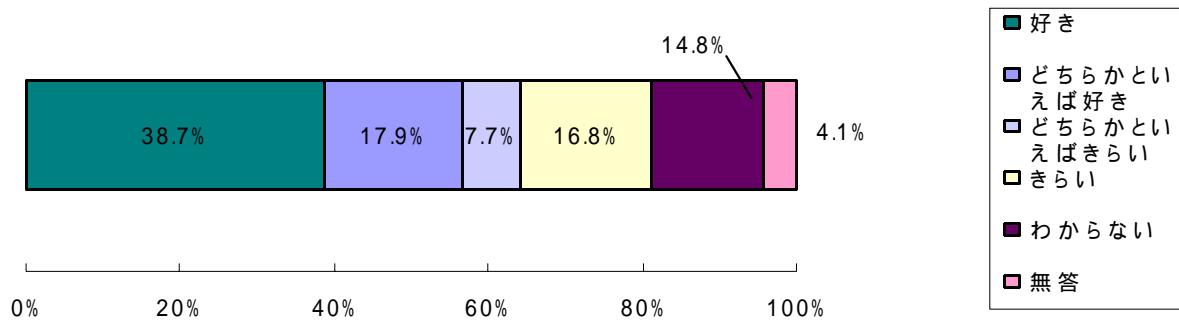
Q12（盲聾養はQ11）「ひと月に何冊くらいマンガ以外の本を買うか」

Q14（盲聾養はQ13）「ひと月に、何冊くらいマンガ本を買うか？」】

Q15 あなたは読書がすきですか？

- 1 すき 2 どちらかといえばすき 3 どちらかといえばきらい
4 きらい 5 わからない

Q15 あなたは読書が好きですか



「好き」「どちらかといえば好き」という肯定的な回答をした生徒の割合は約56%おり、「どちらかといえばきらい」「きらい」という否定的な回答の約24%を大きく上回っている。しかし、約24%の否定的な回答のうち、「きらい」が約17%を占めており、読書が好きな生徒ときらいな生徒の2極化がみられる。

Q13との関連でみると、マンガ以外の本をひと月に1冊以上読む生徒の割合は、小学生、中学生より少なく、「読まない」生徒の割合も多いことから、生徒の状況や、読書への取り組みに対して困難な状況があるなど、様々な要因が考えられる。

参考：【クロス集計：盲聾養Q12「ひと月に何冊マンガ以外の本を読むか」】

【関連資料：児童生徒Q13（盲聾養Q12）「ひと月に何冊マンガ以外の本を読むか」
Q15（盲聾養Q14）「ひと月に何冊マンガ本を読むか」】

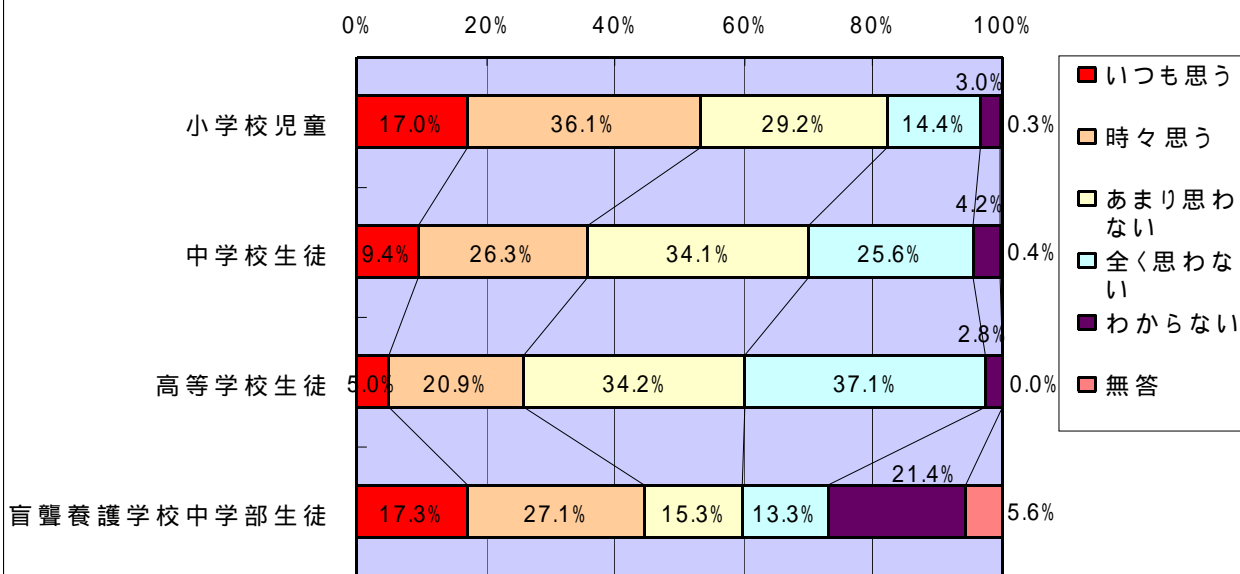
4 最近の土曜日の過ごし方について、次の質問に答えましょう。

小・中・高・盲聾養

Q16 土曜日が休みになったことで、「以前よりも家族で出かけたり、遊んだりすることが多くなったなあ」と思いますか？

- 1 いつも思う 2 時々思う 3 あまり思わない
4 まったく思わない 5 わからない

Q16 土曜日が休みになったことで、「以前よりも家族で出かけたりすることが多くなったなあ」と思いますか



小学生における「いつもそう思う」「時々思う」という肯定的な回答をした児童の割合は約53%と全体の半数を少し超え、否定的な回答は約43%である。中学生では、肯定的な回答が約35%と「あまり思わない」と同じ程度であり、高校生では、肯定的な回答が約25%程度と減少している。また、高校生では、「あまり思わない」という回答が中学生と同じ程度であるが、「全く思わない」という回答が中学生の約25%から約37パーセントと大幅に増加している。

中学部生徒は、肯定的な回答が約44%であり、否定的な回答が合わせて約29%と他の校種より大幅に少ない割合となっている。

小学生、中学生、高校生を進むにつれて、肯定的な回答が減少し、否定的な回答が増加している。休みとなった土曜日が、特に中学生、高校生にどのように活用されているのか、例えば、自由時間としてゆとりある活用であるか、与えられた内容への対応であるのか等、実態を把握していくことが必要である。

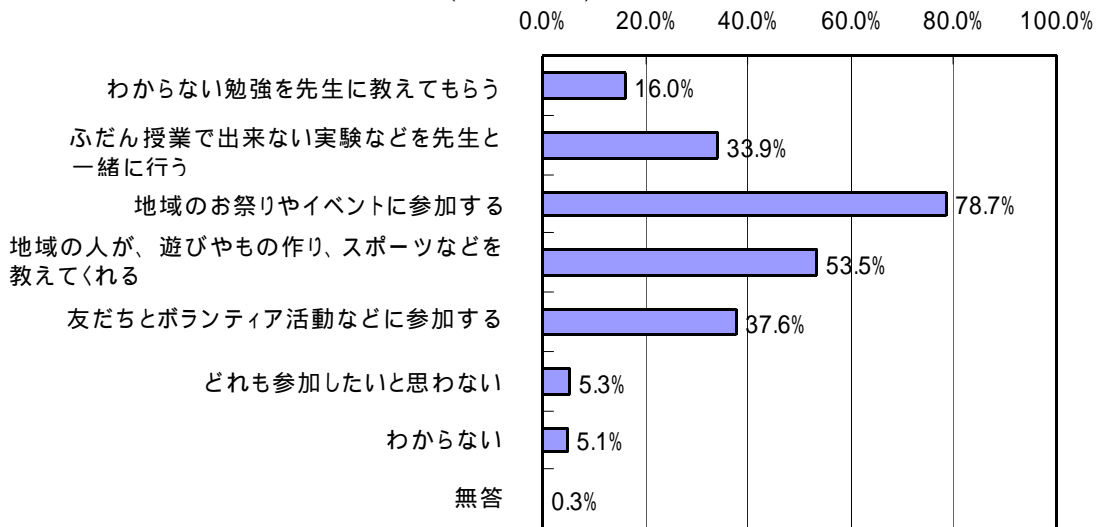
参考：【関連資料：保護者Q16「土曜日が休みになったことで、以前よりも家族で出かけたり、遊んだりすることが多くなったと思うか？」

Q17「土曜日が休日になったことで、子供の生活に時間的なゆとりができたと思うか」】

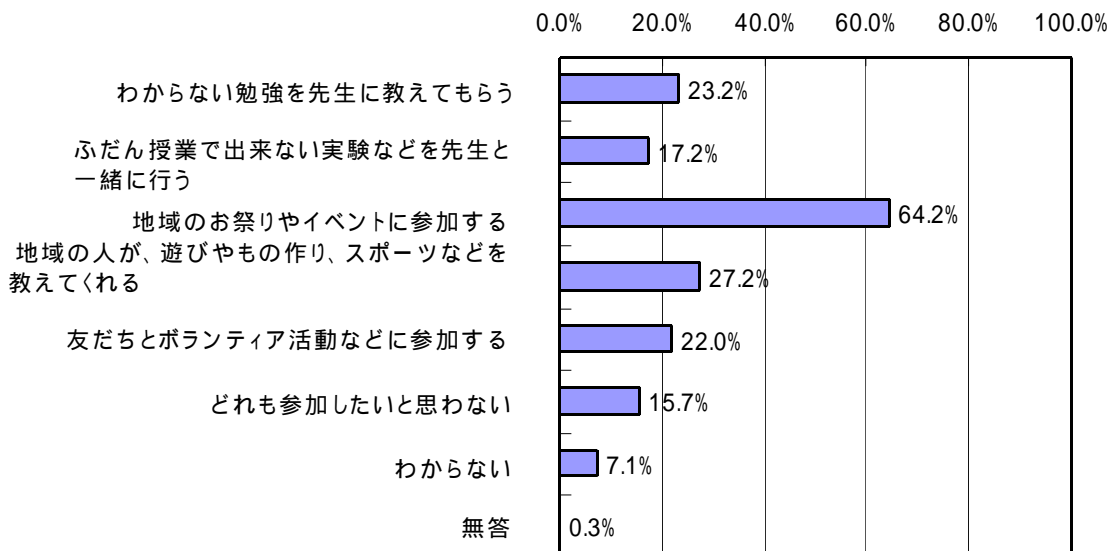
Q17 あなたは、土曜日に、次のような取り組みがあったら参加したいと思いますか？参加したいと思うものをすべて選んで答えましょう。

- 1 わからない勉強を先生に教えてもらう
- 2 ふだん、授業でできない実験などを先生と一緒にやる
- 3 地域のお祭りやイベントに参加する
- 4 地域の人から、遊びやもの作り、スポーツなどを教えられる
- 5 友達とボランティア活動などに参加する
- 6 どれも参加したいと思わない
- 7 わからない

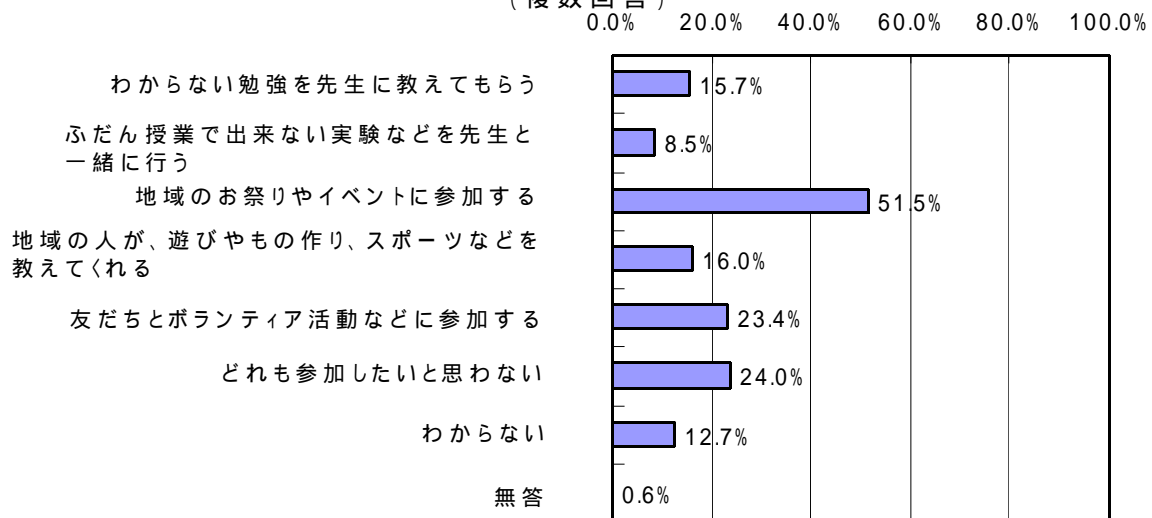
小学校：Q17 土曜日の休みに、参加したいと思う取り組みは何ですか
(複数回答)



中学校：Q17 土曜日の休みに、参加したいと思う取り組みは何ですか
(複数回答)



高等学校：Q17 土曜日の休みに、参加したいと思う取り組みは何か
(複数回答)



小学生、中学生、高校生ともに、「地域のお祭りやイベントに参加する」という回答が目立って多くなっているが、その割合は、小学生に比べて中学生、高校生となるにつれて、少なくなってきている。

また、小学生では、「地域の人が遊びなどを教えてくれる」という回答が5割、「普段授業で出来ない実験等を先生と行う」「友だちとボランティア活動を行う」という回答がそれぞれ3割を超えているが、中学生、高校生では3割を超える項目はない。

中学生では、「わからない勉強を先生に教えてもらう」という回答が2割を超え、小学生、高校生の回答より多くなっている。さらに、「どれも参加したいと思わない」という回答が、小学生の5.3%に比べ、3倍近い15.7%と大幅に増え、高校生では、24%とさらに増えている。

全体的に、小学生と中学生の間に大きな差がみられる。時間的なゆとりとともに、意欲的な面の実態（例えば、他にやりたいことがあるのか、何もやりたくないのか等）も今後把握していく必要がある。

参考：【関連資料：保護者Q17「土曜日が休日になったことで、子供の生活に時間的なゆとりができたと思うか」】

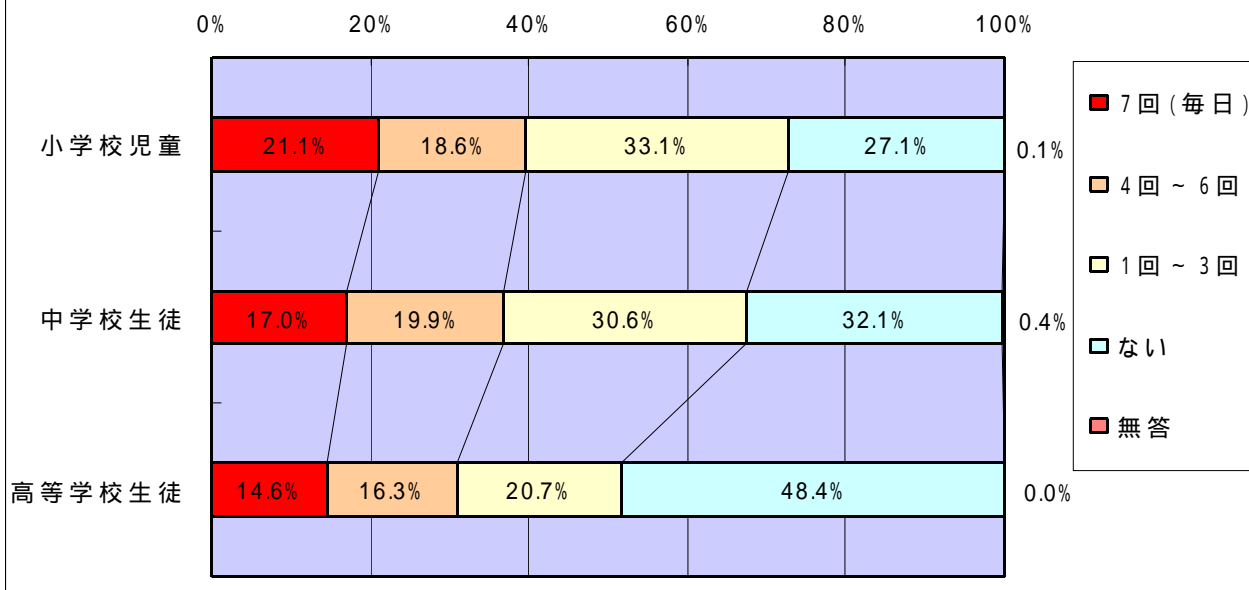
5 あなたの家庭の様子について、次の質問に答えましょう。

小・中・高

Q18 あなたの家では、家族みんながそろって朝食を食べるのは、週に何回ぐらいありますか？

1 7回(毎日) 2 4回～6回 3 1回～3回 4 ない

Q18 家族みんながそろって、朝食を食べるのは、週に何回ぐらいありますか



小学生、中学生、高校生と校種が変わるにつれて、週に1回以上あるという回答の割合が減少している。小学生では、7割を超えているが、中学生では7割を下回り、高校生では、5割程度となっている。小学生では、全体の1/5が毎日そろって朝食を食べていると答えているが、高校生では15%程度に少なくなっている。

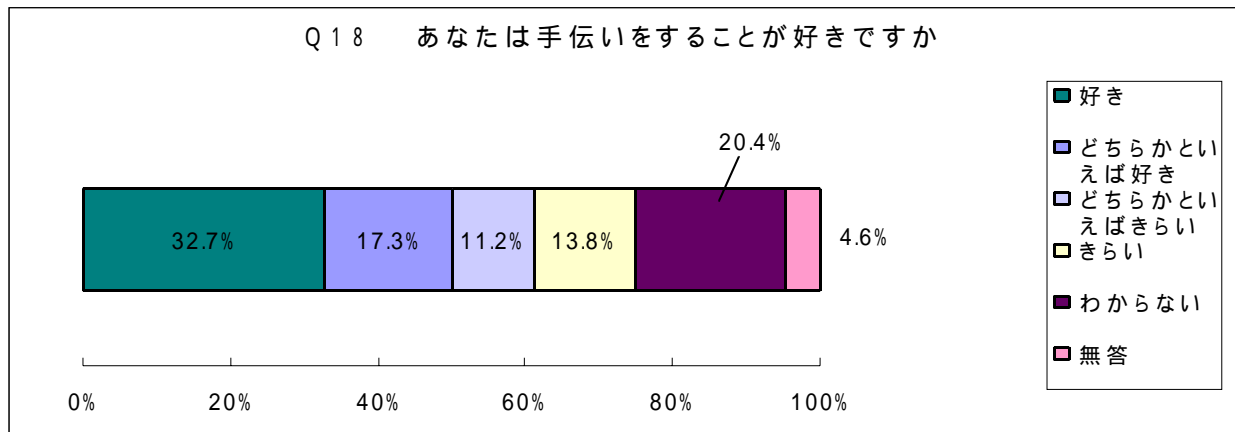
一方、「ない」という回答は、小学生、中学生で3割程度であったが、高校生では、5割近くに増えている。

高校生の「ない」という回答が多いことについて、Q5の回答に「朝食を食べないで学校に行くことがある」という高校生が3割近くいることからすると、単に朝食時間が異なるだけではなく、自分が朝食をとらないために、家族といっしょに揃うことがない、ということも想定される。また、自分の子供が高校生であれば朝食の支度もある程度まかせられる等の判断により、親が早い時間に仕事に出かけている等の実態も想定される。家庭における子供の状況(小学生か、中学生か、高校生か)により、回答の結果が異なってくる事が予想されることから、まず、家庭の状況の把握が求められる。

参考：【クロス集計：Q5「朝食を食べないで学校に行くことがあるか」】

Q18 あなたは、手つだいをすることが、好きですか？

- 1 すき 2 どちらかといえば好き 3 どちらかといえばきらい
 4 きらい 5 わからない



「好き」「どちらかといえば好き」という肯定的な回答の生徒が、全体の半数を占め、「どちらかといえばきらい」が約11%、「きらい」が約14%と少ない割合となっている。「わからない」という回答が2割を超えて、「好き」の約33%に次いで多い割合を示している。

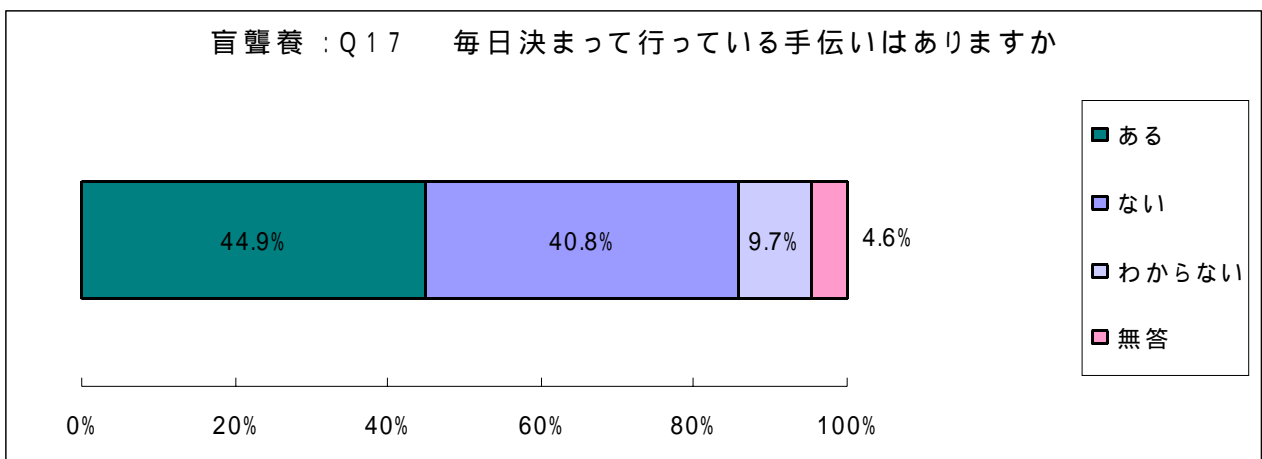
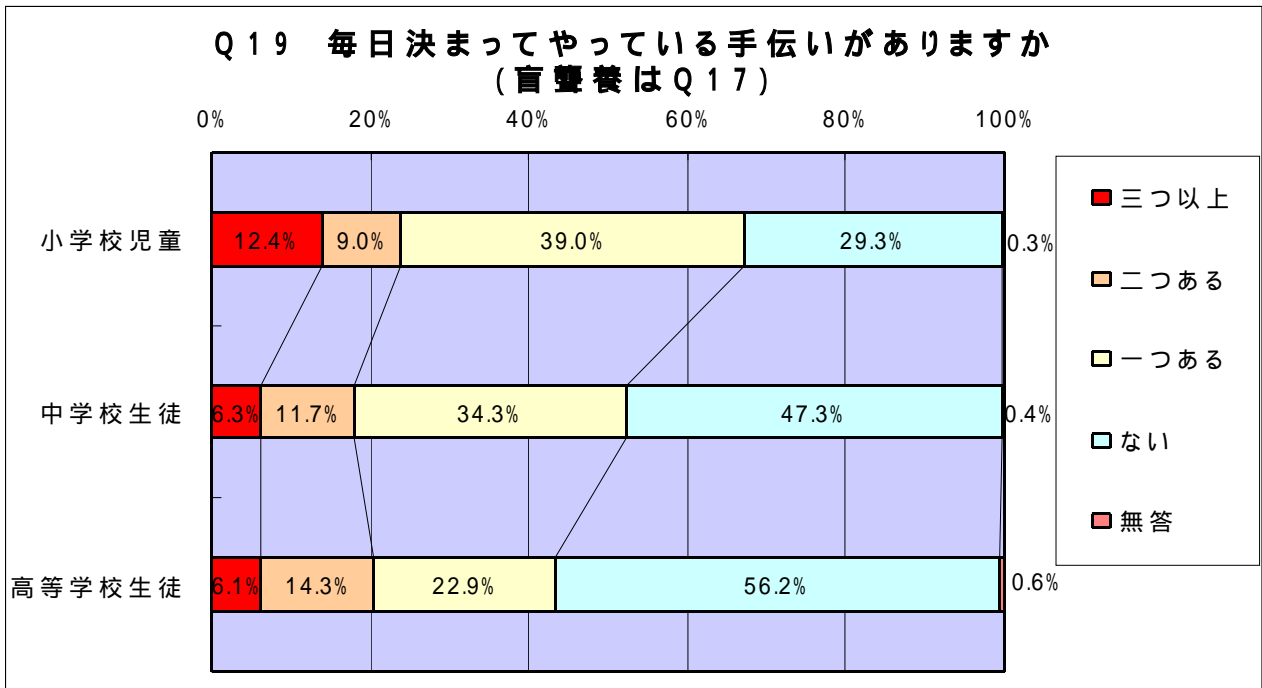
生徒の実態として、家庭でのお手伝いもあれば、学校や寄宿舍でのお手伝いも想定され、多様な内容を前提とすることから、「わからない」が比較的多い結果となったと考えられる。

参考：【関連資料：児童生徒Q19（盲聾養はQ17）「毎日決まってやっている手伝いはあるか」】

小・中・高・盲聾養

Q19 あなたには、毎日決まってやっている手伝いがありますか？（盲聾養はQ17）

- 1 三つ以上ある 2 二つある 3 一つある 4 ない
 (1 ある 2 ない 3 わからない)



小学生では、一つ以上あると回答した割合は、7割近くあり、中学生で5割、高校生と中学部生徒は、4割を超える程度である。

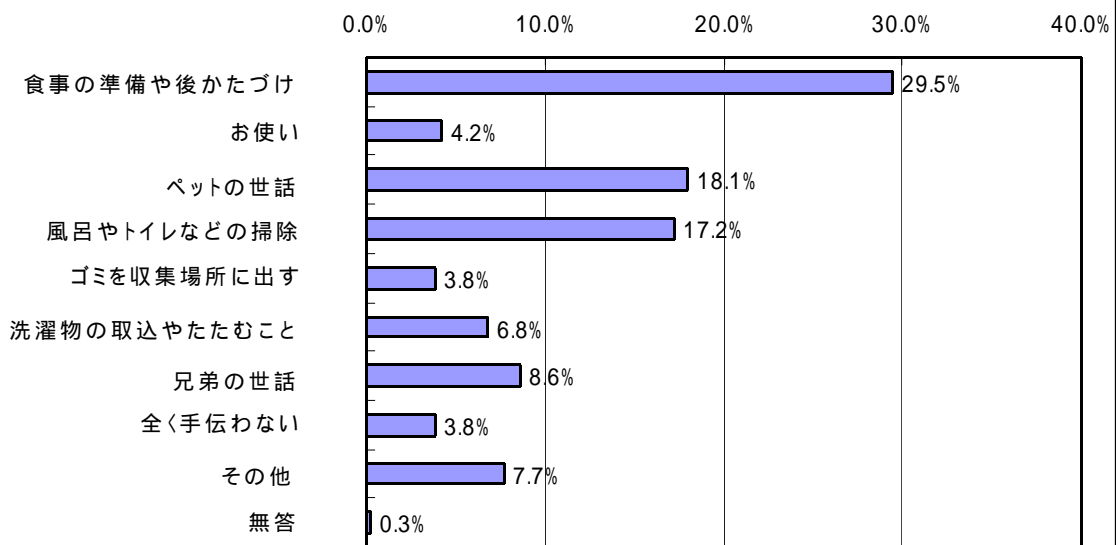
「三つ以上」という回答が、小学生から中学生になると大きく減るが、高校生では、中学生と同じ割合である。また、「ない」と回答した割合は、小学生から中学生にかけて大きく増え、高校生ではさらに増加して半数を超えている。お手伝いを行う生徒としない生徒の2極化がみられる。

参考：【関連資料：児童生徒（盲聾養）Q18「手伝いをすることが好きか」】

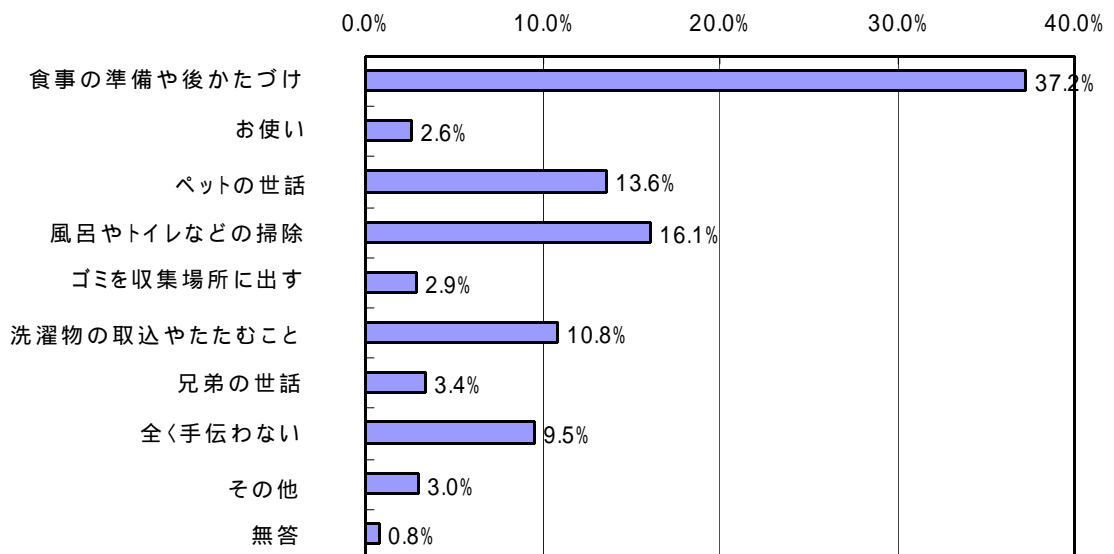
Q20 次の中で、あなたが手伝うことの多い仕事を一つ選んで答えましょう。
 なお、あてはまるものがない場合は、その内容を「9 その他の内容」に簡単に書きましよう。

- 1 食事の準備や後かたづけ 2 お使い 3 ペットの世話
- 4 風呂やトイレなどのそうじ 5 ゴミを収集場所に出す
- 6 洗濯物の取り込みやたたむこと 7 きょうだいの世話
- 8 まったく手伝わない 9 その他 ()

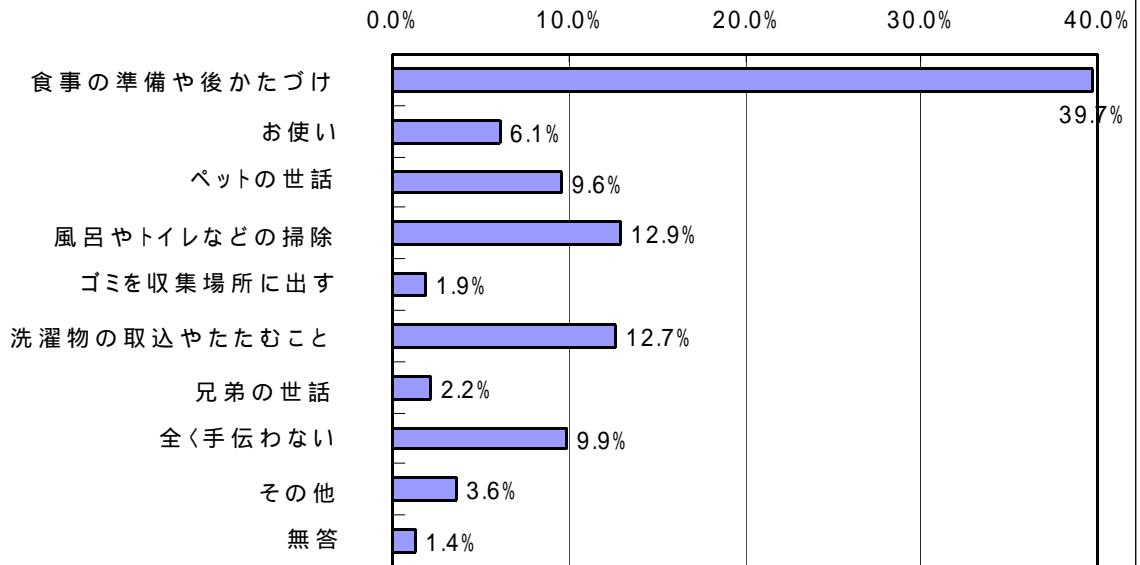
小学校：Q20 手伝うことの多い仕事は何ですか



中学校：Q20 手伝うことの多い仕事は何ですか



高等学校：Q20 手伝うことの多い仕事は何ですか



手伝いの内容としては、「食事の準備や後かたづけ」「ペットの世話」「風呂やトイレなどの掃除」が、小学生、中学生、高校生ともに上位を占めているが、中学生や高校生では、他に「洗濯物の取込やたたむこと」が多くなっている。

また、小学生では「兄弟の世話」が約9%あるが、中学生、高校生では、2～3%と少ない。

一方、「全くない」という回答の割合は、小学生で約4%程度であるのに対して、中学生、高校生では、10%近くに増えている。

その他の内容としては、小学生は「布団をたたむこと」「洗濯物を干す」「玄関や部屋の掃除」「茶碗等の洗い物」等、中学生は「玄関や部屋の掃除」「農作業」等、高校生は「部屋の掃除」等がみられる。

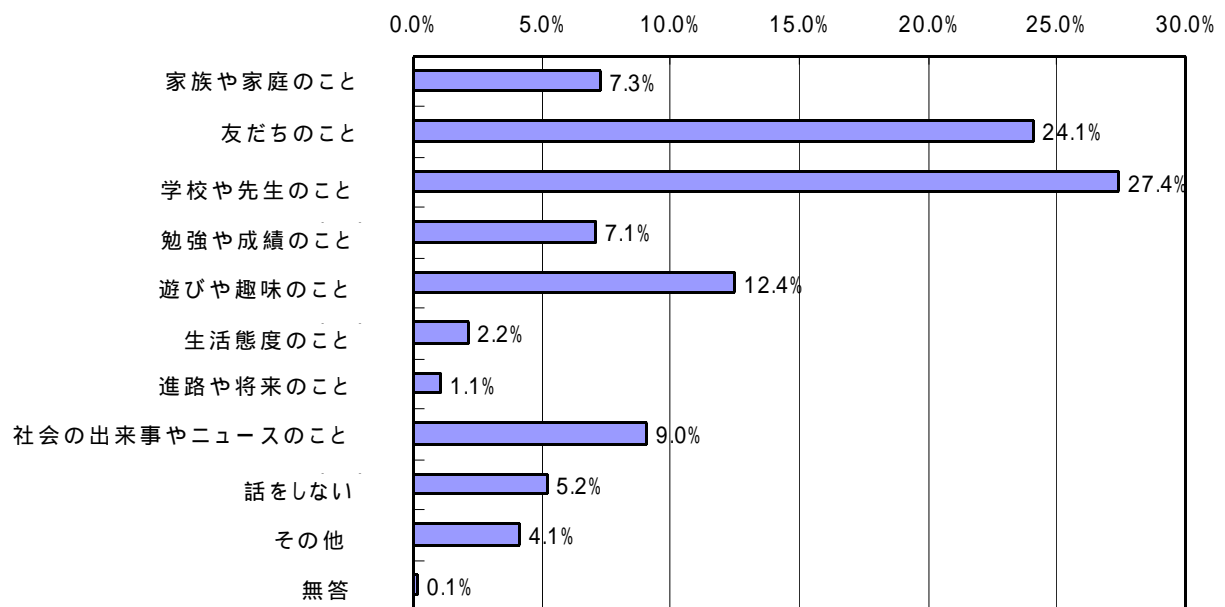
全体的な傾向として、学年が進むにつれて、手伝いをしない傾向がみられる。また、「その他」の内容なども含めて考えると、小学生では、いろいろな内容の手伝いをしているが、中学生、高校生と進むにつれて、手伝いの内容がある程度決まってくる傾向にある。

小・中・高

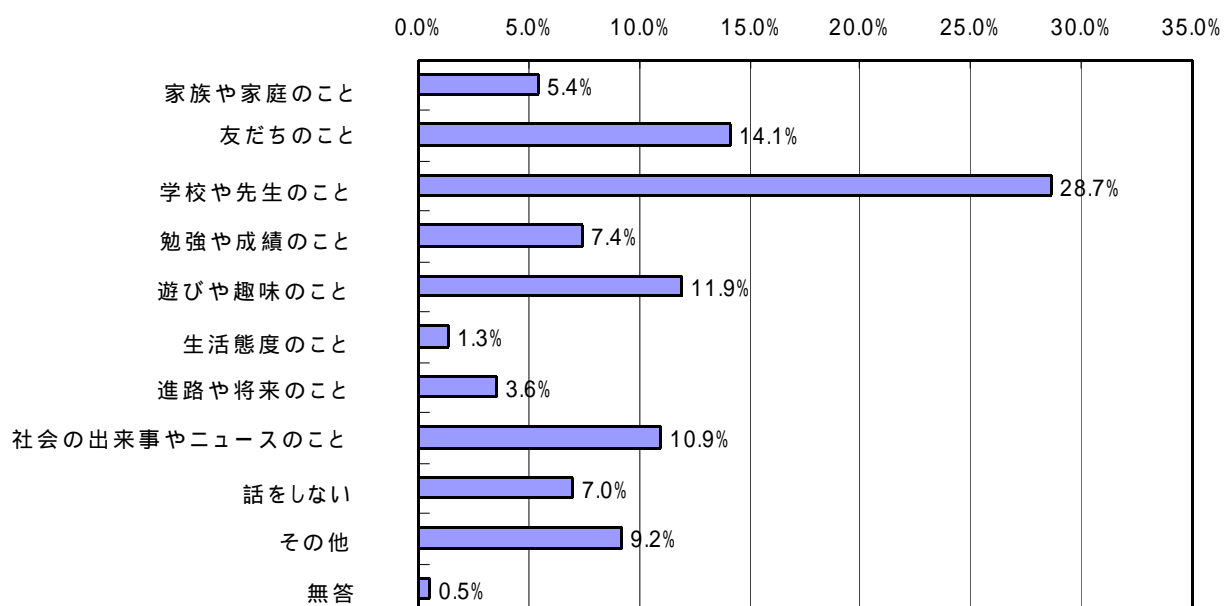
Q21 次の中で、あなたが家族と話をする時、一番多い話題を一つ選んで答えましょう。なお、あてはまるものがない場合は、その内容を「10 その他の内容」に簡単に書きましょう。

- 1 家族や家庭のこと 2 友だちのこと 3 学校や先生のこと
- 4 勉強や成績のこと 5 遊びや趣味のこと 6 生活態度のこと
- 7 進路や将来のこと 8 社会の出来事やニュースのこと
- 9 話をしない 10 その他()

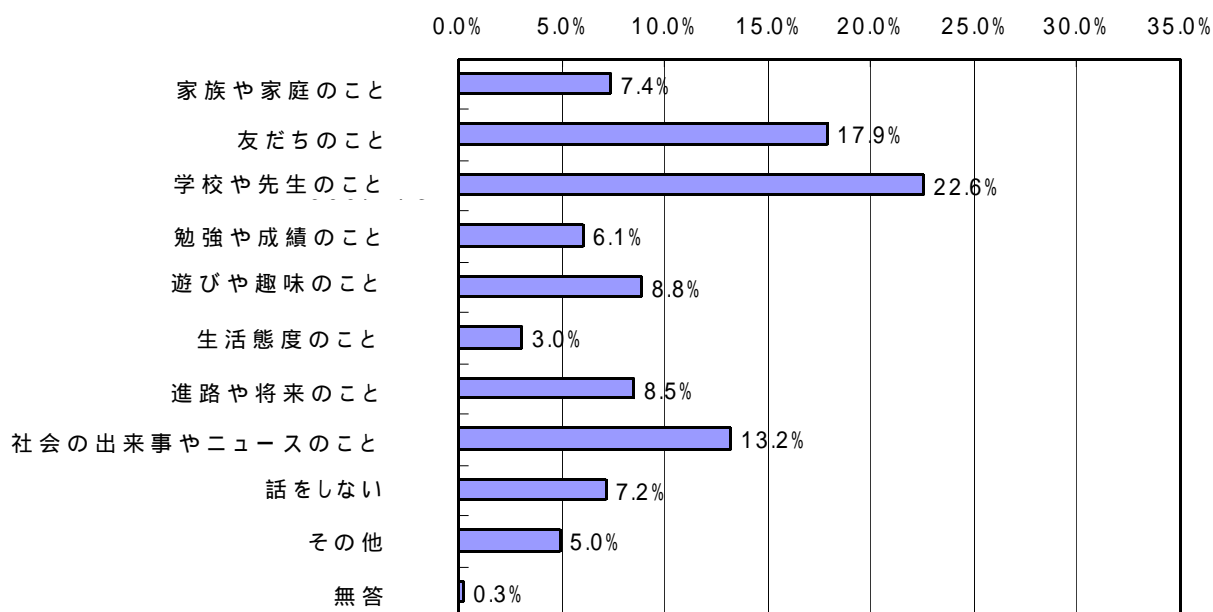
小学校：Q21 家族との会話の話題は何ですか



中学校：Q21 家族との会話の話題は何ですか



高等学校 : Q 2 1 家族との会話の話題は何ですか



小学生、高校生では、「学校や先生のこと」「友だちのこと」が目立って多いが、中学生では、「学校や先生のこと」が多く、「友だちのこと」は、それほど多くない。

また、「遊びや趣味のこと」「社会の出来事やニュースのこと」が、小学生、中学生、高校生とも、比較的多い傾向にあり、特に高校生では「社会の出来事やニュースのこと」が目立って多くなっている。さらに、高校生では「進路や将来のこと」の割合が中学生の3.6%から8.5%に増加している。

「話をしない」という回答は、小学生では5.2%あり、中学生で7%、高校生で7.2%と微増傾向にある。

その他の内容としては、小学生では「食べ物のこと」「スポーツ少年団のこと」「テレビ番組のこと」「買い物のこと」等、中学生では「部活動のこと」「テレビ番組のこと」等、高校生では「部活動のこと」「テレビ番組のこと」等がみられる。

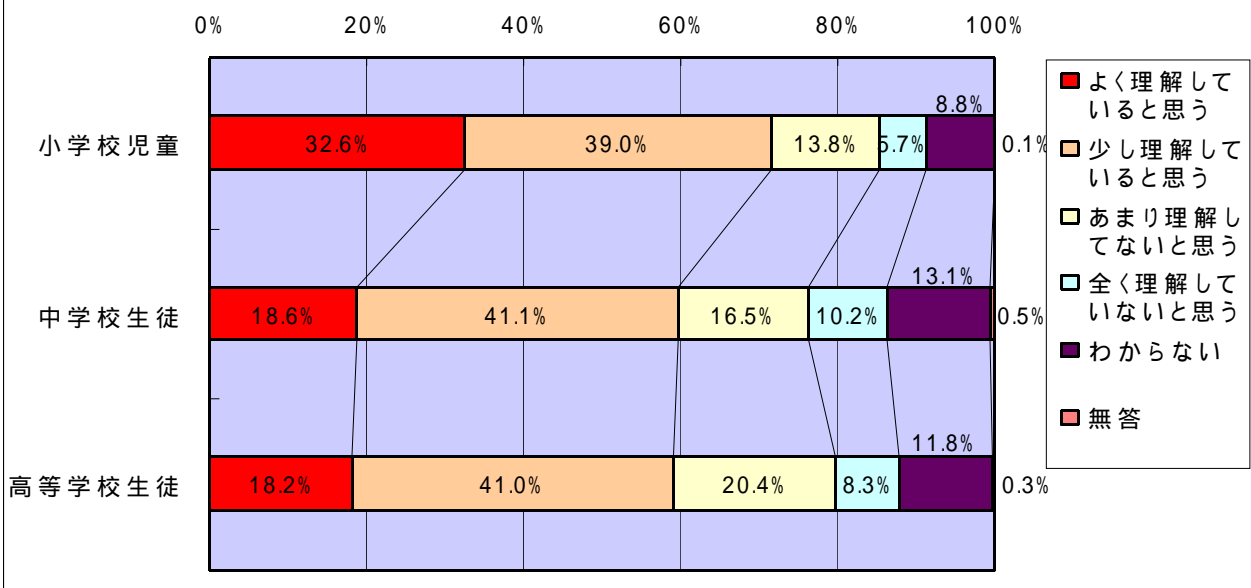
全体的にみると、学校及び遊びや趣味に関わる項目の回答が比較的多く、特に小学生に多いが、中学生、高校生と進んでくると、それが減少し、「社会の出来事やニュースのこと」が目立ってくる。「自分の身近なこと」や「自分に関わること」から「社会的なこと」に視野が広がってきていることが伺える。

参考：【関連資料：担任Q7「保護者や家庭の傾向：子供と保護者の会話が少ない」】

Q22 あなたの家族は、あなたの気持ちをよく理解してくれていると思いますか？

- 1 よく理解していると思う
- 2 少し理解していると思う
- 3 あまり理解していないと思う
- 4 まったく理解していないと思う
- 5 わからない

Q22 家族は、自分をよく理解してくれていますか



小学生では、1/3が理解してくれていると感じており、中学生、高校生になると、2割を下回る結果となっている。肯定的な回答が小学生で7割、中学生、高校生で6割と、半数以上の児童生徒が、理解してくれていると感じている。

中学生と高校生の傾向はよく似ているが、「全く理解していない」という回答が高校生になると減る一方で「あまり理解していない」という回答が増える傾向にある。

「全く理解していない」という回答が、中学生では、小学生の2倍に増えるが、高校生になると微減している。

また、「わからない」という回答が中学生、高校生ともに1割を超えている。

小学生から中学生の間に一つの大きな変化がみられる。思春期の特性等を十分に理解し、本人の心身の成長に寄り添う接し方に十分配慮していくことが求められる。

参考：【クロス集計：Q23「今の家庭生活が楽しいか」

Q25「あなたを叱るとき、理由などを聞いてくれるか」

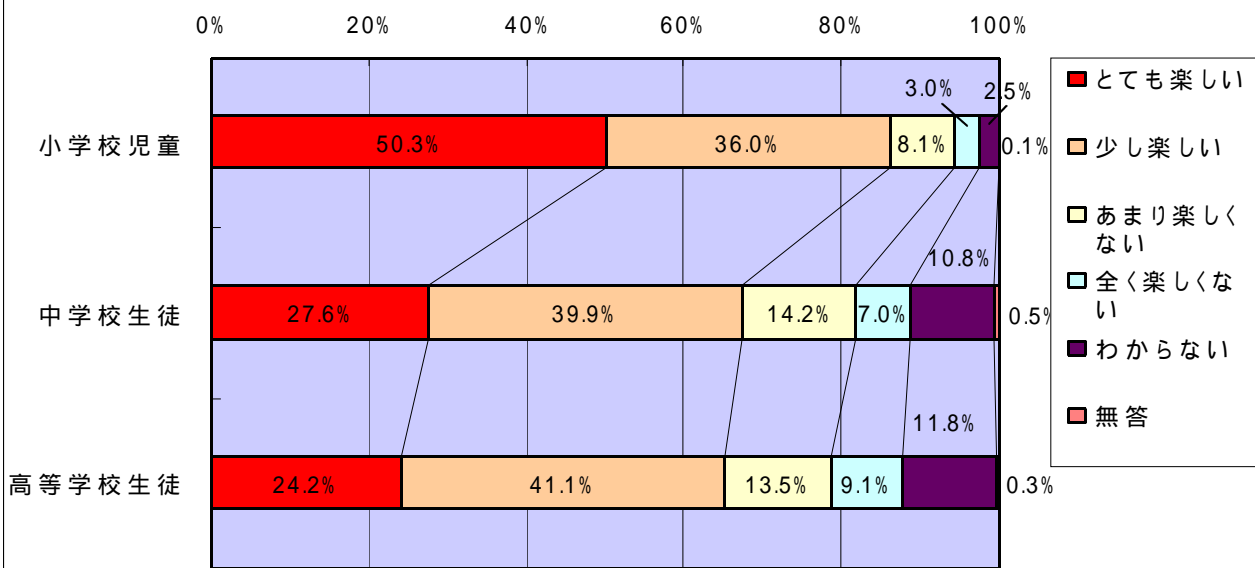
Q26「厳しい叱られ方をしたことがあるか」】

【関連資料：保護者Q23「子供の気持ちをよく理解していると思うか」】

Q23 あなたは、今、自分の家庭での生活が楽しいと思いますか？

- 1 とても
- 2 少し楽しい
- 3 あまり楽しくない
- 4 まったく楽しくない
- 5 わからない

Q23 今の家庭の生活が楽しいと思いますか



小学生では、「とても楽しい」は5割を超え、「少し楽しい」を合わせると、8割を超える。一方、中学生、高校生では、「とても楽しい」がともに3割を下回り、「少し楽しい」を合わせても7割を下回っている。

小学生と中学生の差が大きく、特に「とても楽しい」という回答が、20%以上も減少し、高校生に至ってはさらに減少している。

中学生と高校生では、それほど大きな違いはみられないが、「わからない」という回答が1割を超えており、小学生の回答から大きく増加している。

小学生と中学生・高校生の間大きな違いがみられる。前問のQ22と同様に、環境の変化や心身の成長、思春期の悩み等、自分の内面における要因の他に、学校や家庭における様々な要因も考えられることから、一人一人の異なる要因を十分に理解し対応していくことが求められる。

参考：【クロス集計：Q22「家族はあなたの気持ちをよく理解していると思うか」

Q24「家族はあなたのことをよくほめてくれるか」】

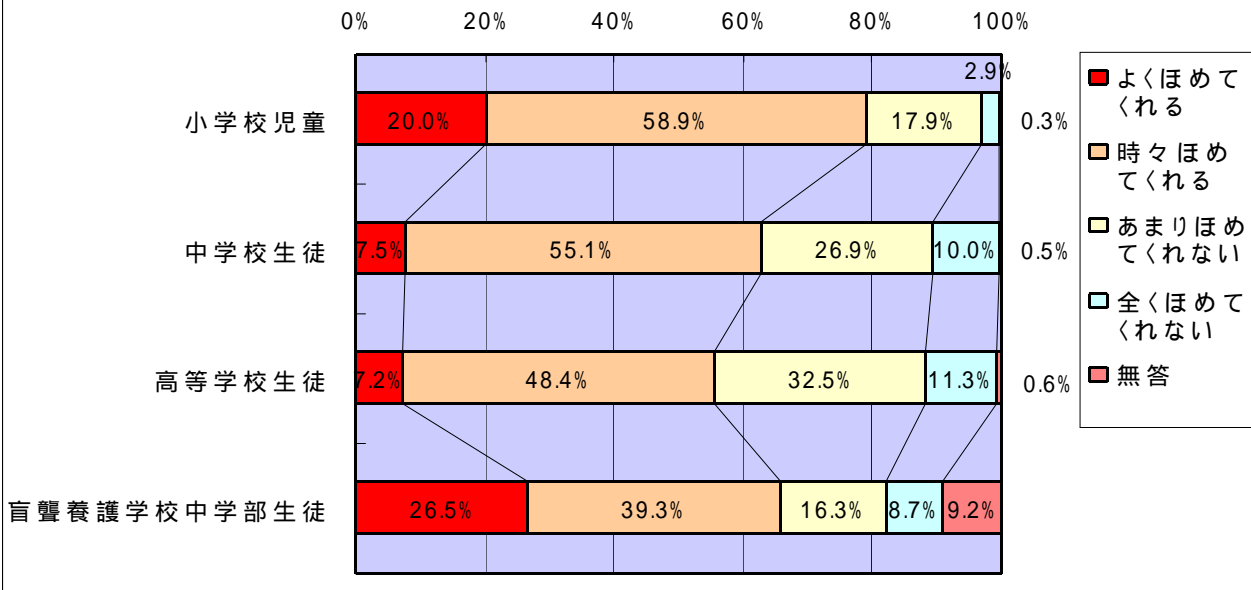
【関連資料：保護者Q24「子育ての場として今の家庭状況に満足しているか」】

小・中・高・盲聾養

Q24 あなたの家族は、あなたのことをよくほめてくれますか？（盲聾養はQ19）

- 1 よくほめてくれる
- 2 時々ほめてくれる
- 3 あまりほめてくれない
- 4 まったくほめてくれない

Q24 あなたの家族は、あなたのことをほめてくれますか
（盲聾養はQ19）



小学生では、2割の児童が「よくほめてくれる」と感じ、「時々ほめてくれる」と合わせると、8割近い児童が肯定的な回答をしている。

中学生、高校生では、「よくほめてくれる」と感じる生徒が7%程度と、小学生の半分以下であり、「時々ほめてくれる」と合わせても6割前後の回答となっている。

否定的な回答は中学生、高校生が目立ち、「全くほめてくれない」と感じる生徒が、中学生、高校生ともに1割を超えている。

中学部生徒は、「よくほめてくれる」と感じる生徒が全体の1/4を超え、小学生よりも多く、肯定的な回答を合わせると6割を超えている。一方で、否定的な回答は少なく、「全くほめてくれない」という回答は1割を下回っている。

全体的に、半数以上の児童生徒は「家族は自分をほめてくれる」と感じている。中学部生徒における「よくほめてくれる」割合が多い理由は、学校が家庭と連携して、生活のいろいろな場面でほめたり励ましたりしていることが要因の一つとしてあげられる。

「ほめること」の効果を改めて考えるとともに、その効果を学校教育の場で生かして行くことができるように、家庭と連携し、積極的に啓発を行っていくことが求められる。

参考：【クロス集計：Q23「今の家庭生活が楽しいか」

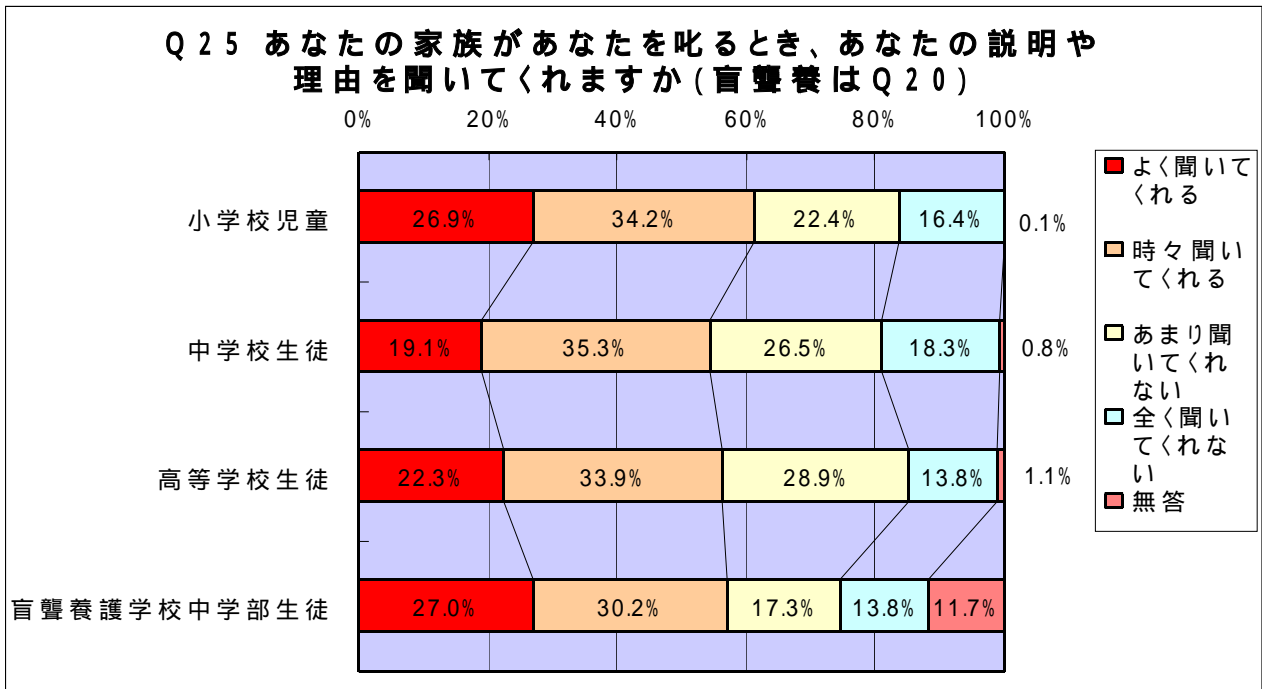
盲聾養Q20「あなたを叱るとき、理由などを聞いてくれるか」】

【関連資料：保護者Q25「子供をよくほめているか」】

小・中・高・盲聾養

Q25 あなたの家族があなたを叱るとき、あなたの説明や理由を聞いてくれますか？
 (盲聾養はQ20)

- 1 よく聞いてくれる 2 時々聞いてくれる
 3 あまり聞いてくれない 4 まったく聞いてくれない



小学生から高校生まで、大きな違いはみられない。

「よく聞いてくれる」という回答は、小学生で約27%で中学生、高校生で20%前後であり、「時々聞いてくれる」を合わせた肯定的な回答は、6割前後である。

一方、否定的な回答も4割前後みられ、「全く聞いてくれない」という回答は中学生の約18%が目立っている。

中学部生徒は、「よく聞いてくれる」が27%と小学生と同じ程度あり、「あまり聞いてくれない」「全く聞いてくれない」という回答がそれぞれ約17%、約14%と少ない。

全体的に、校種によって親の対応や接し方にも大きな違いはみられない。肯定的な回答が半数を超えているが、保護者の回答傾向を踏まえ、良好な親子関係の構築に協力していくことが求められる。

参考：【クロス集計：Q22「家族はあなたの気持ちをよく理解していると思うか」

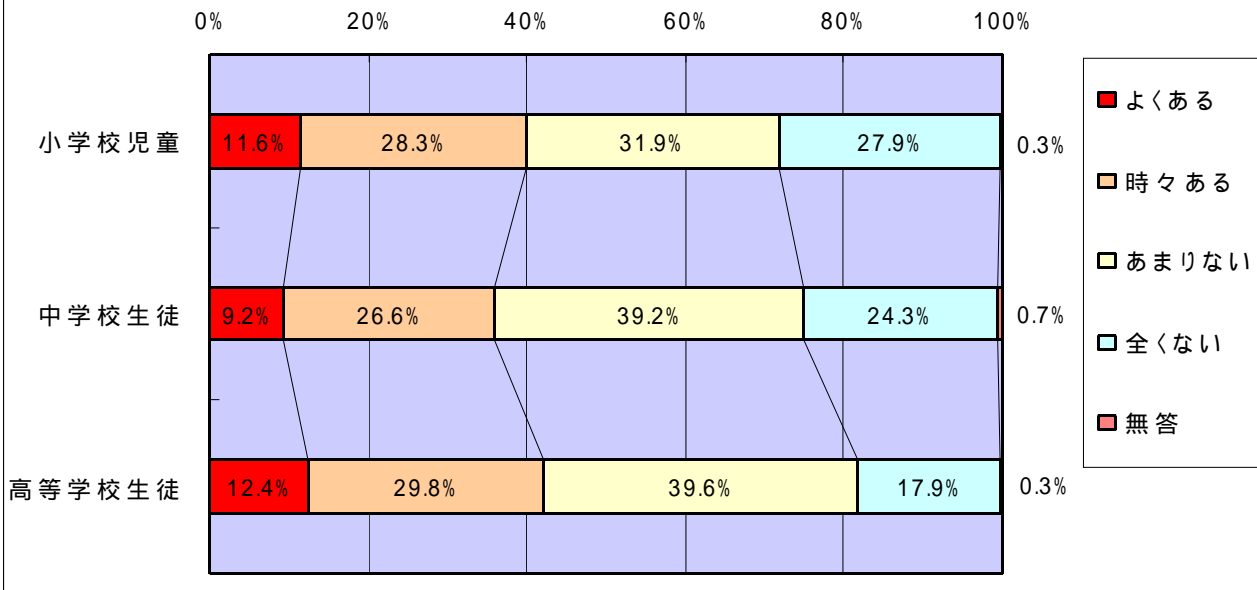
盲聾養Q19「家族はあなたのことをよくほめてくれるか」】

【関連資料：保護者Q26「子供を叱る時、子供の説明や理由等を聞いているか」】

Q26 あなたは、今までに、家できび厳しい叱られ方（例えば、たたかれたり、外に出されたりするなど）をしたことがありますか？

- 1 よくある
- 2 時々ある
- 3 あまりない
- 4 まったくない

Q 26 今までに、家で厳しい叱られ方（例えば、たたかれたり、外に出されたりするなど）をしたことがありますか



「よくある」という回答が小学生では、約11%あり、それが中学生では約9%に減り、高校生で約12%に増えている。「よくある」「時々ある」という肯定的な回答の割合は、どの校種とも4割前後である。一方、「あまりない」という回答が小学生では約3割、中学生と高校生では約4割と肯定的な回答と近い割合となっている。

「全くない」という回答の割合は、小学生、中学生、高校生と進むにつれて、だんだん減少している。

児童虐待等が社会問題となっている昨今、小学生、中学生、高校生にみられる特に1割前後の「よくある」という回答の内容を把握し、平素の指導に生かしていくことが必要である。

参考：【クロス集計：Q22「家族はあなたの気持ちをよく理解していると思うか」】

【関連資料：保護者Q27「テレビ等で報道されている児童の虐待について、自分を振り返ってどう思うか」

担 任Q4「家できびしく叱られたり、暴力を受けたりしていると思われる子」】

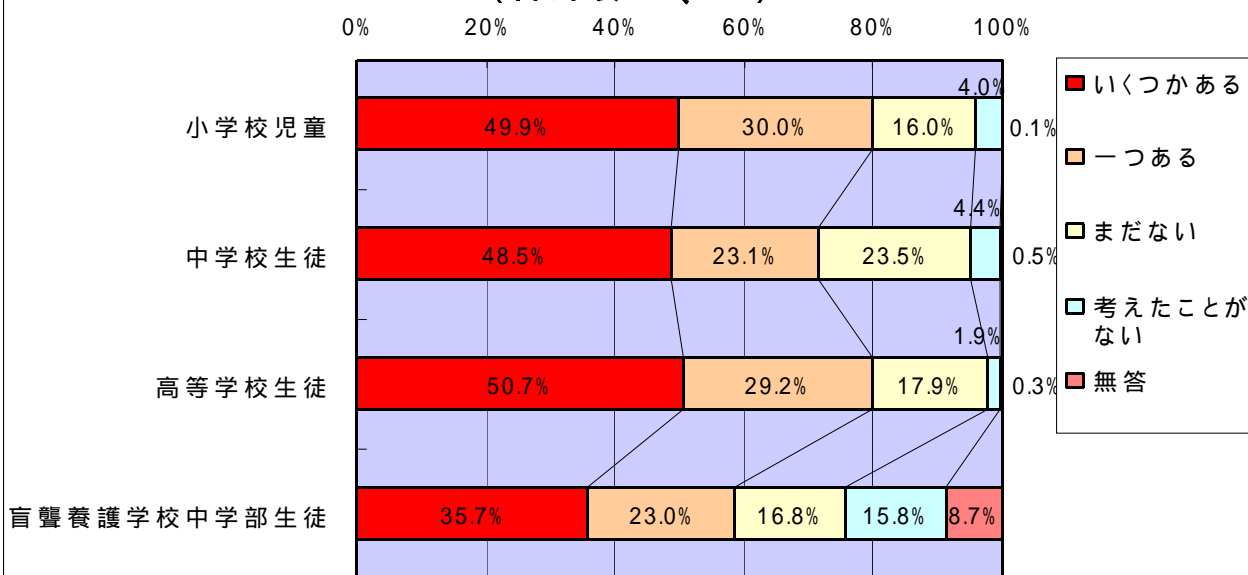
6 あなたの将来の仕事について、次の質問に答えましょう。

小・中・高・盲聾養

Q27 将来、やってみたいと思っている仕事がありますか？（盲聾養はQ21）

- | | |
|----------|------------|
| 1 いくつかある | 2 一つある |
| 3 まだない | 4 考えたことがない |

Q27 将来やってみたいと思っている仕事がありますか
(盲聾養はQ21)



「いくつかある」という回答が、小学生、中学生、高校生で約半数あり、「一つある」と回答した割合を合わせると、将来やってみたいと思う仕事がある児童生徒の割合は、小学生と高校生で8割、中学生では7割ほどである。

中学生で、「まだない」という回答が約23%と、小学生の16%、高校生の約18%に比べて多くなっている。

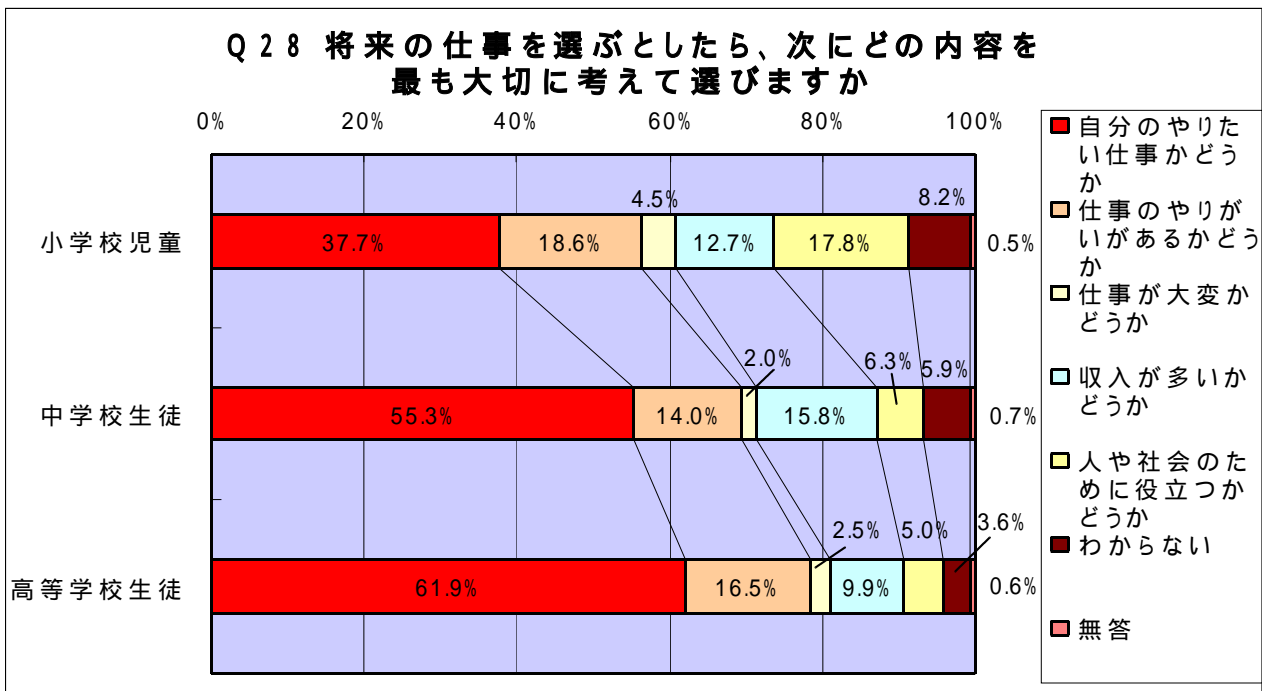
また、「考えたことがない」という回答は、高校になると2%を下回っている。

中学部生徒は、「いくつかある」という回答が約36%、「一つある」という回答と合わせて6割近い生徒が、将来の仕事イメージしている。一方で、約16%の生徒が考えたことがないと回答している。

中学校、高校では進路指導の時間が設定されるが、小学校にはそれが無い状況である。しかし、中学生と同程度の割合の児童が、将来の仕事について、自分としての考えを持っていることがわかる。今後、小学校においても進路や職業指導に準ずる指導の時間を確保していくことが求められる。

Q28 あなたが、将来の仕事を選ぶとしたら、次のどの内容を最も大切に考えて選びますか？

- 1 自分のやりたい仕事かどうか
- 2 仕事のやりがいがあるかどうか
- 3 仕事が大変かどうか
- 4 収入が多いかどうか
- 5 人や社会のために役立つかどうか
- 6 わからない



小学生、中学生、高校生とも、「自分のやりたい仕事かどうか」回答が一番多くなっているが、小学生では4割弱であるのに対し、中学生では5割を超え、高校生では6割を超えている。「仕事のやりがい」と「仕事の大変さ」については、それほど大きな違いはみられないが、「収入の多さ」についての回答では、中学生になると割合が増えるが、高校生になると逆に減っている。

また、小学生では「人や社会のために役立つか」を選択した児童が約18%いたが、中学生では半分以下の約6%、高校生では5%と減少してきている。

小学生では、「自分」とともに「人や社会のために」という意識があるが、中学生、高校生になると、現実的な考えが先行し、「自分」を強く意識した職業選択をする傾向にあり、特に高校生では、収入の多さよりも「自分のやりたい仕事」を求める傾向にある。現実にはやりたい仕事が見つからない場合、就職はどうするのか等、いろいろ検討していく余地がある。

参考：【関連資料：保護者Q28「子供が、将来の仕事を選ぶとしたら、次のどの内容を最も大切に考えて選んで欲しいと思うか」】

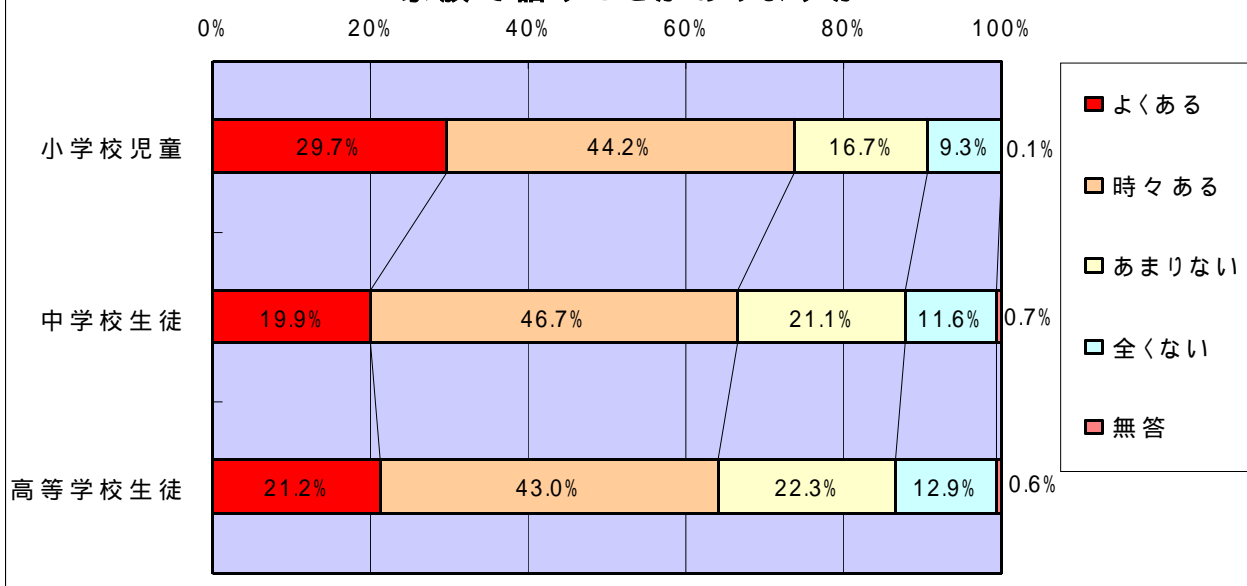
7 最近、新聞やテレビで報道された、子供が被害にあった事件や事故にかかわって、次の質問に答えましょう。

小・中・高

Q29 子供が被害にあった事件や事故について、家族で話をすることがありますか？

- 1 よくある
- 2 時々ある
- 3 あまりない
- 4 まったくない

Q 2 9 新聞等で報道された子供が被害に遭った事件等を家族で話すことができますか



「よくある」という回答が小学生では、約3割、「時々ある」を合わせると肯定的な回答が7割を超える程度である。それが中学生、高校生では「よくある」が約2割に減り、「時々ある」という回答を合わせると、肯定的な回答が6～7割である。

「あまりない」「全くない」という回答が徐々に増え、高校生では全体の1/3を超えている。

Q21との関連で、家族で会話するときの話題が「社会の出来事やニュース」と回答している児童生徒の割合が比較的多かったことから、このような結果になったものと想定される。

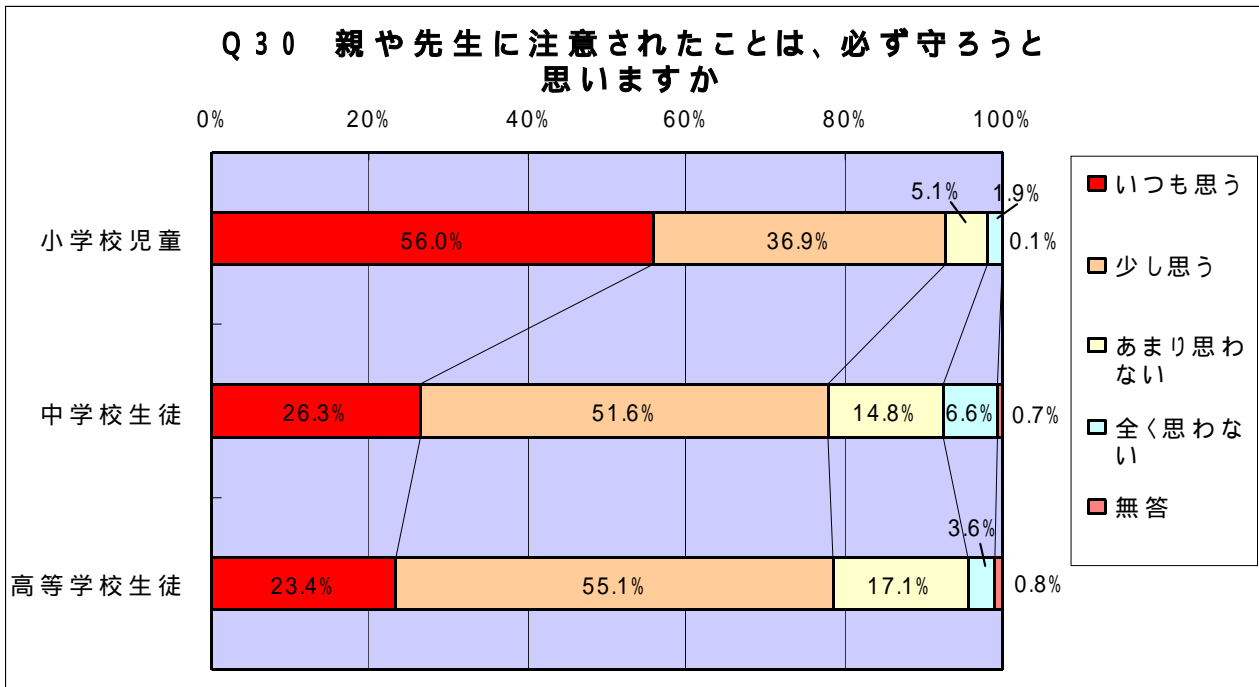
特に、児童の連れ去り事件をはじめとして、青少年が巻き込まれる事件や事故が多発していることを考えると、家庭や地域との連携を強化して、未然の防止策を工夫していく必要がある。

参考：【クロス集計：Q30「親や先生に注意されたことは、必ず守ろうと思うか」】

【関連資料：保護者Q29「子供が被害にあった事件や事故について、子供と話をすることがあるか」】

Q30 あなたは、事件や事故の被害を受けないようにするために、先生や家族に注意されたことは、必ず守ろうと思いますか？

- 1 いつも思う
- 2 少し思う
- 3 あまり思わない
- 4 まったく思わない



「いつも思う」という回答が小学生では56%、「少し思う」を合わせると9割を超えている。

中学生、高校生では、「いつも思う」が約23~26%、「少し思う」を合わせると8割近くになる。

中学生では、「全く思わない」という回答が6.6%あり、他の校種より多くなっている。一方で、「あまり思わない」という回答は、高校生が多い傾向にある。

中学生になると、「いつも思う」という回答が激減し、否定的な回答の増加が目立つ。

中学生、高校生では、注意されることへの反発意識とともに、自分で判断できる力がついてくることから、「自分は大丈夫」という意識があることも予想される。この状況を踏まえ、今後、特に、中学生、高校生における日常指導の在り方をはじめ、家庭や地域等との連携の在り方を再確認していく必要がある。

参考：【クロス集計：Q29「子供が被害にあった事件や事故について、家族で話をすることがあるか」】

【関連資料：保護者Q30「子供と約束したり、注意したりすることがあるか」
担任Q16「学級の乱れ：学校や学級の決まりを守らない子供」】